

第 1 部

男女共同参画に関する市民生活意識調査

男女共同参画に関する市民生活意識調査（調査結果概要）

1 調査目的

男女共同参画に関する市民の意識や家庭生活や職場の実情などを把握し、第4次たかまつ男女共同参画プラン（仮称）策定の基礎データとするとともに、今後の男女共同参画施策推進の参考資料とする。

2 調査内容

- (1) 家庭生活・子育て・介護について
- (2) 地域活動への参加・防災活動・学校教育について
- (3) 就労について
- (4) ワーク・ライフ・バランスについて
- (5) 男女平等意識について
- (6) 男女間における暴力について
- (7) 男女共同参画社会に関する行政への要望について（ご意見・ご要望）

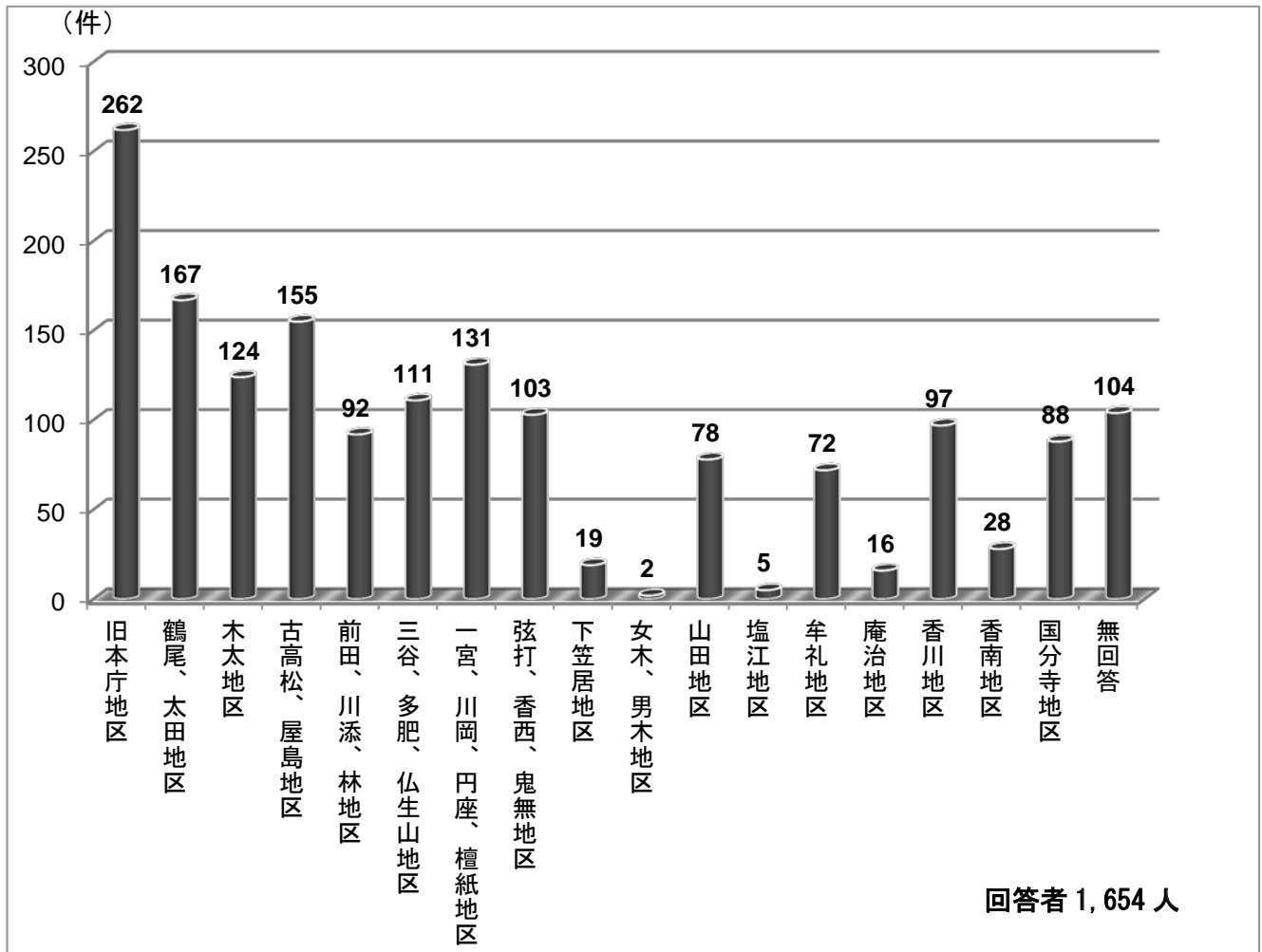
3 調査設計

- (1) 調査期間 平成26年8月29日～9月12日
- (2) 調査対象 20歳以上の男女市民4,200人（無作為抽出）
- (3) 調査方法 アンケート方式、郵送法

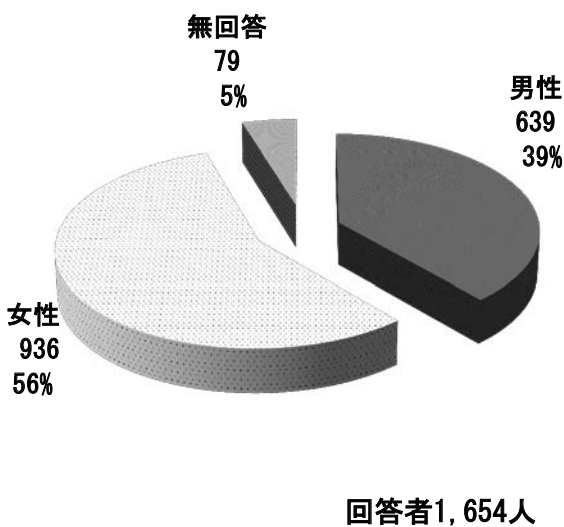
4 回収結果

- (1) 回収数 1,654人
- (2) 回収率 39.4%

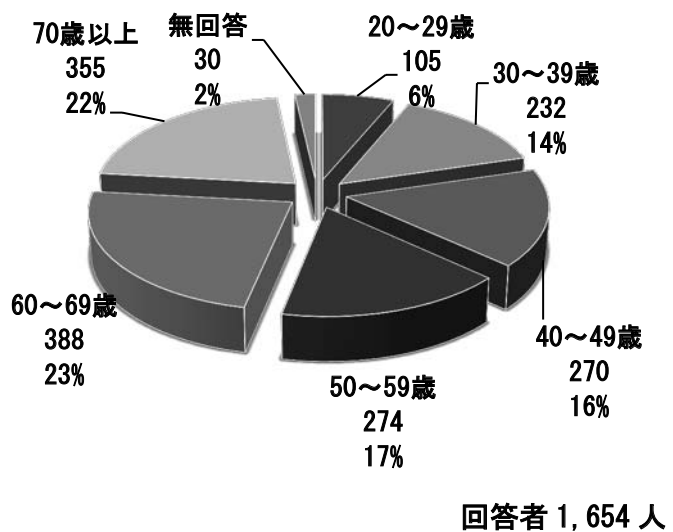
F1 住居地区（あなたがお住まいの住居地区を数字でお答えください）



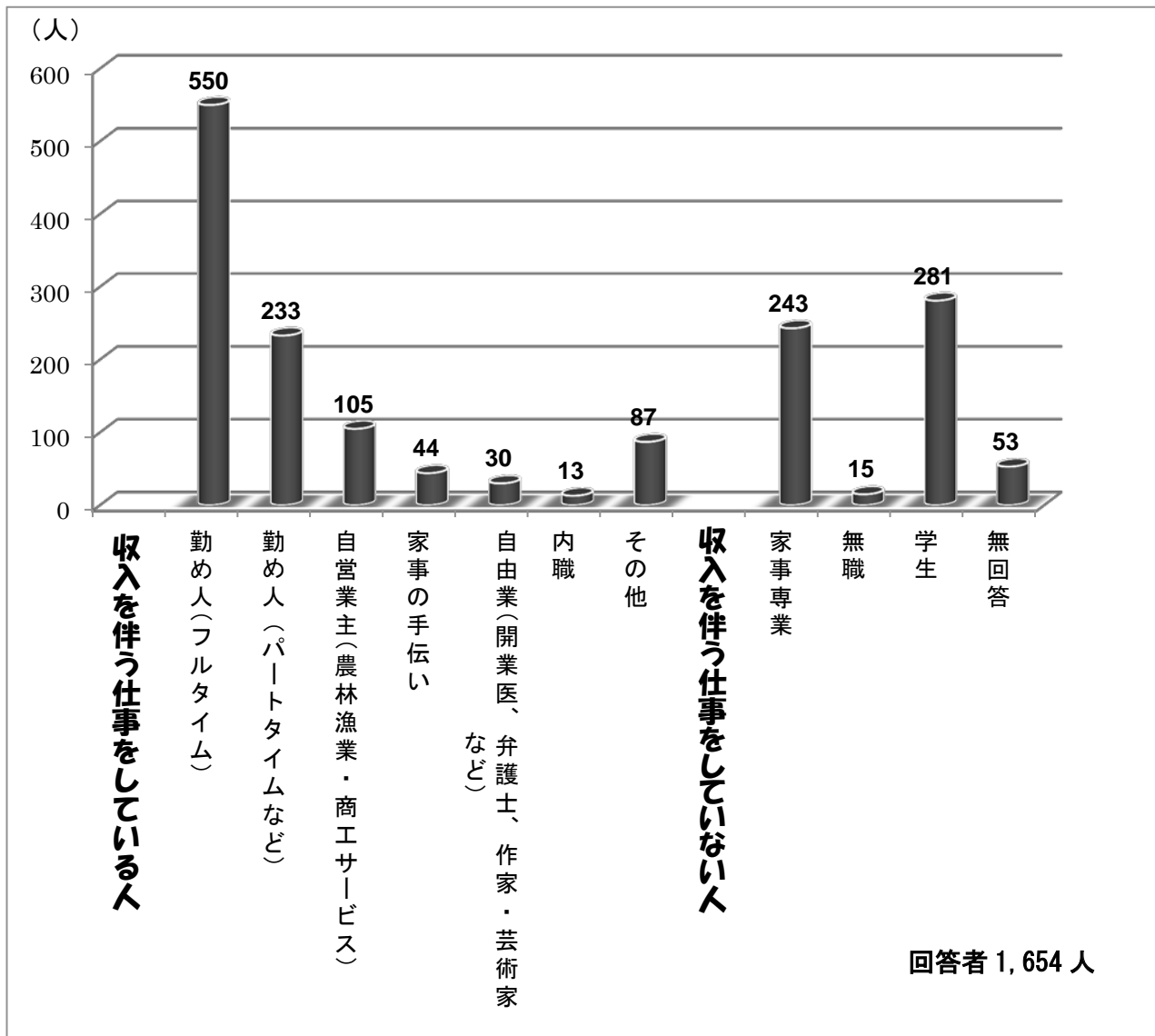
F2 性別



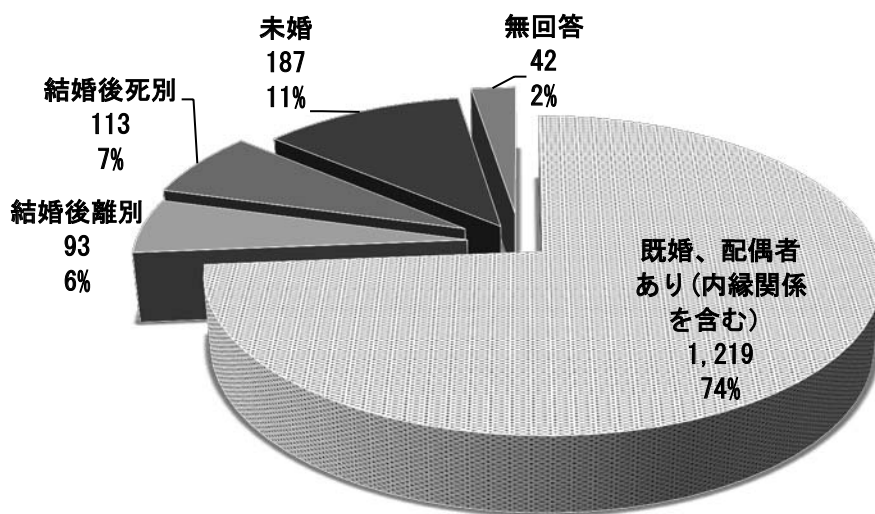
F3 年齢



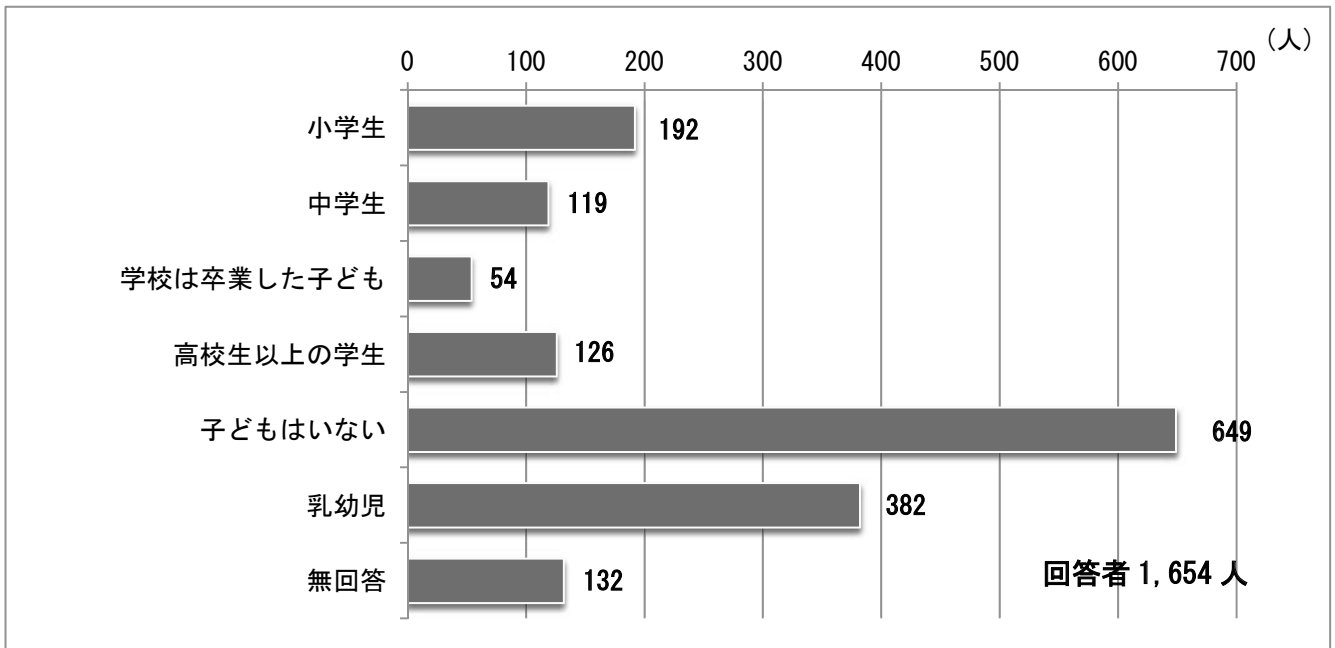
F4 主な仕事（収入を伴う仕事をしている人・収入を伴う仕事をしていない人）



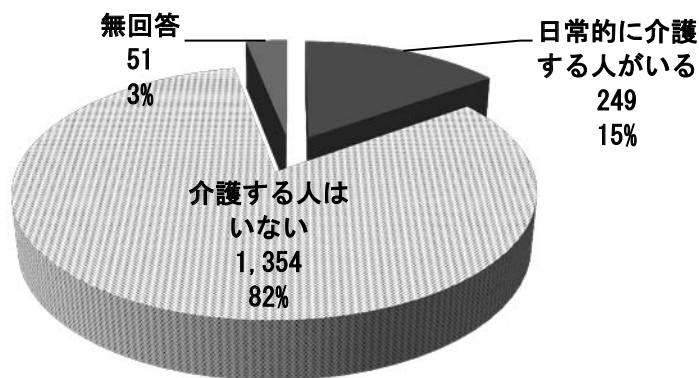
F5 結婚



F 6 子ども

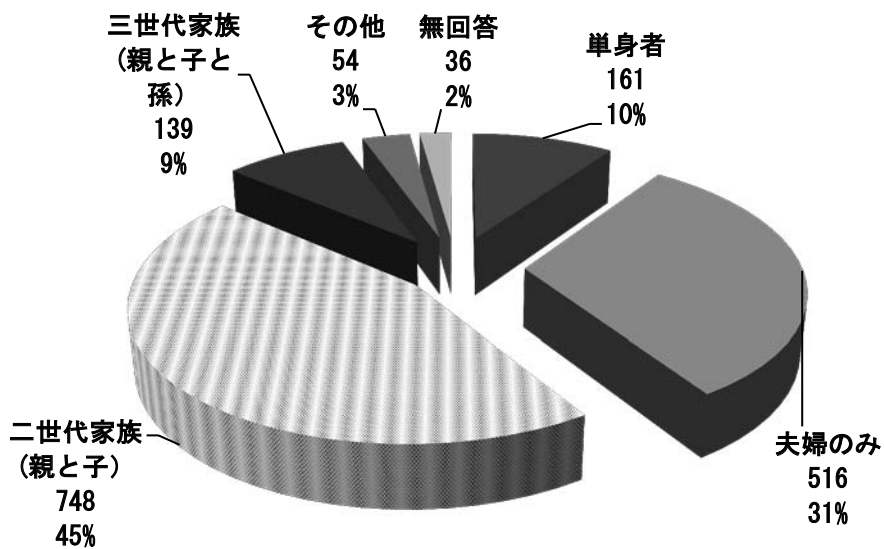


F 7 介護



回答者 1,654 人

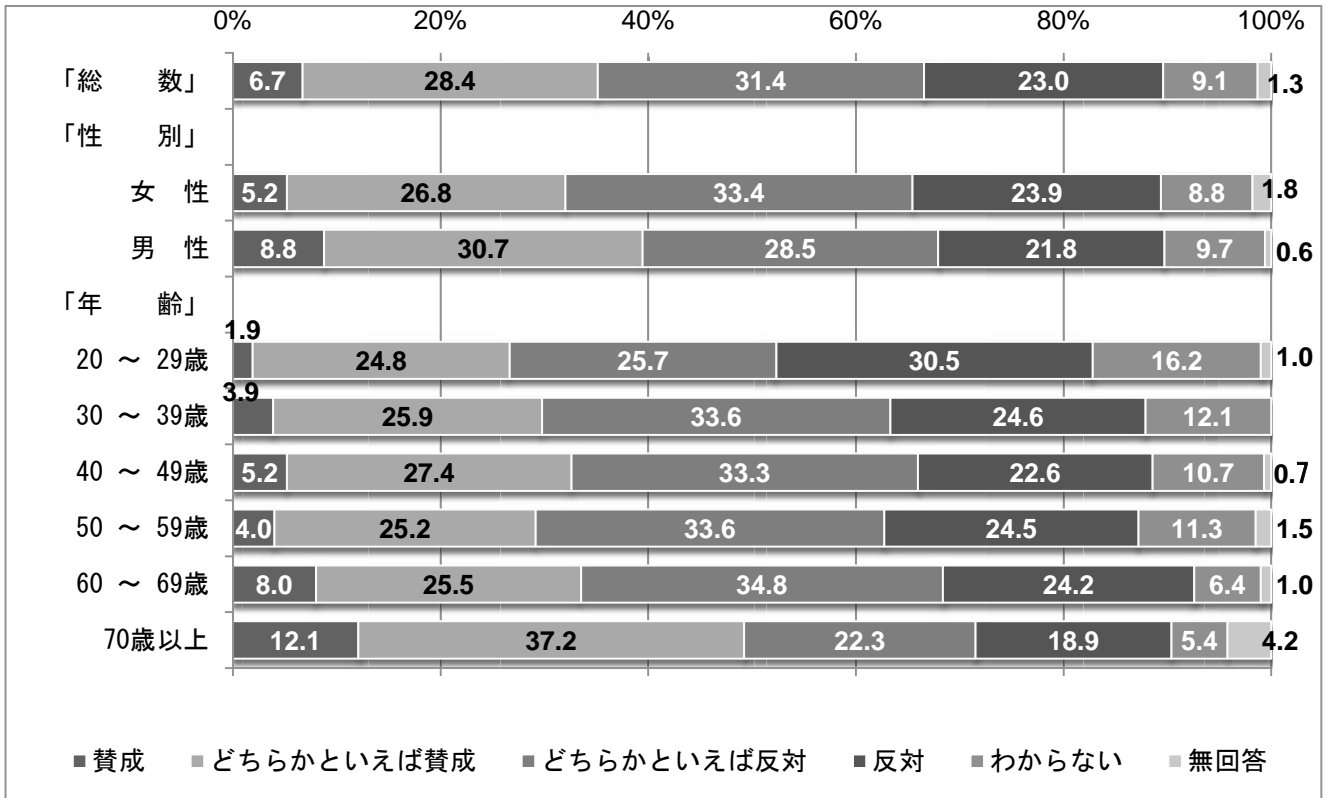
F 8 家族形態



回答者 1,654 人

家庭生活・子育て・介護について

問1 「男は仕事、女は家庭」といった考え方がありますが、このことについて、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか。当てはまるものを1つ選んでください。



【全体】

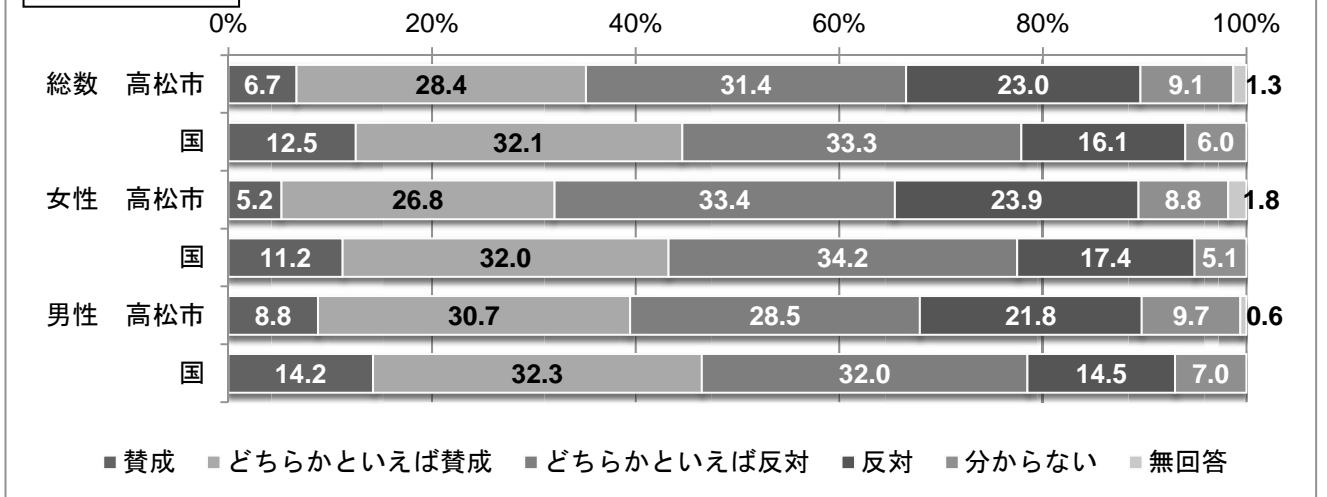
男は仕事、女は家庭といった考え方について、「賛成」とする者の割合が35.1%（「賛成」6.7%+「どちらかといえば賛成」28.4%）、「反対」とする者の割合が54.4%（「どちらかといえば反対」31.4%+「反対」23.0%）となっている。

性別に見ると、「賛成」とする者の割合は、男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「賛成」とする者の割合は、70歳以上で特に多くなっている。

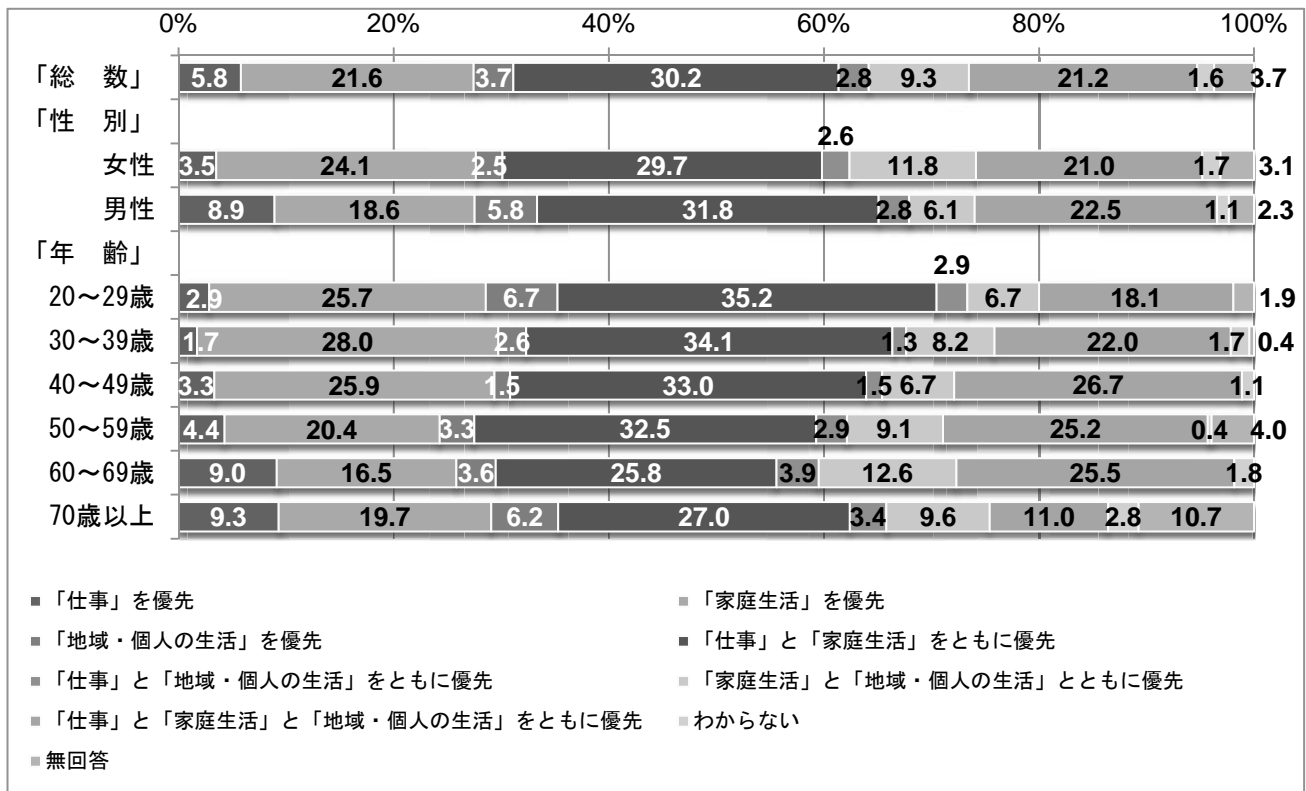
前回の調査結果と比較して見ると、「賛成」（44.4%→35.1%）とする者の割合が低下し、「反対」（47.8%→54.4%）とする者の割合が上昇しており、固定的な性別役割分担意識については、徐々に解消に向かっているとと言える。

国との比較



問2 あなたの「希望に最も近いもの」と、「現実（現状）に最も近いもの」はどれですか？
それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。

(1) あなたの希望に最も近いもの（優先したい）

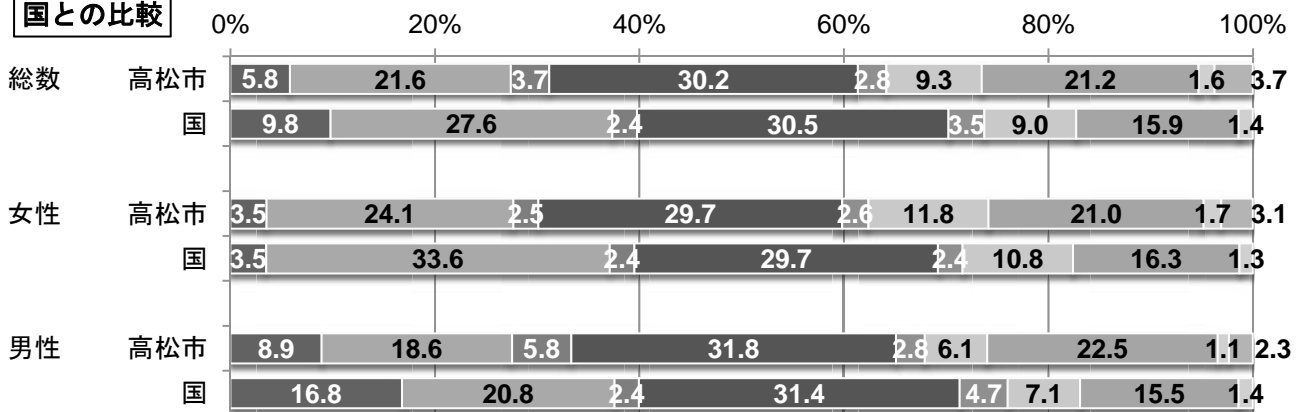


【全体】

生活の中での、「仕事」を優先したいと答えた者の割合が5.8%、「家庭生活」を優先したいと答えた者の割合が21.6%、「地域・個人の生活」を優先したいと答えた者の割合が3.7%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいと答えた者の割合が30.2%、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したいと答えた者の割合が2.8%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいと答えた者の割合が9.3%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいと答えた者の割合が21.2%となっている。

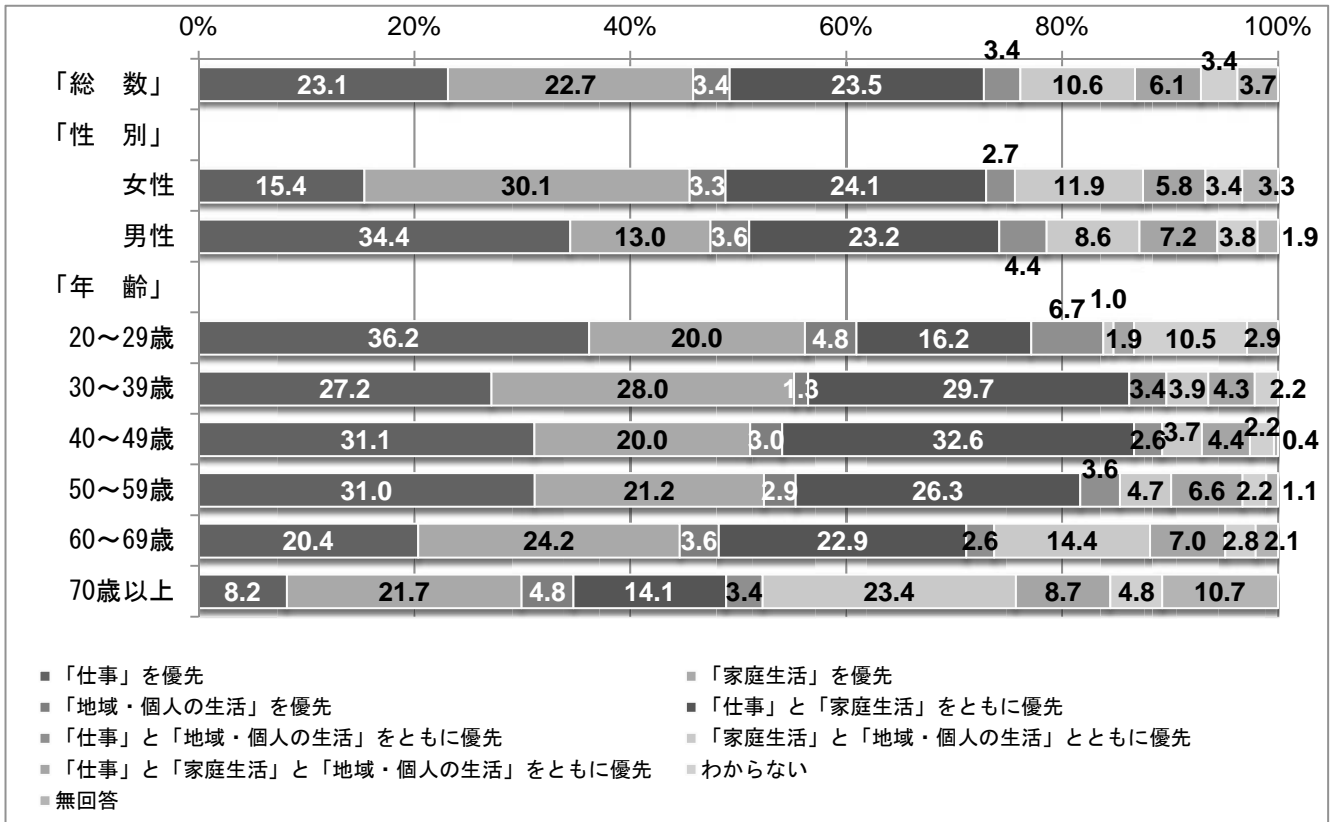
性別に見ると、女性は「家庭生活を優先」する傾向が、男性は「仕事を優先する」傾向が見られる。前回の調査結果と比較して見ると、大きな変化は見られない。

国との比較



- 「仕事」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 無回答
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- わからない

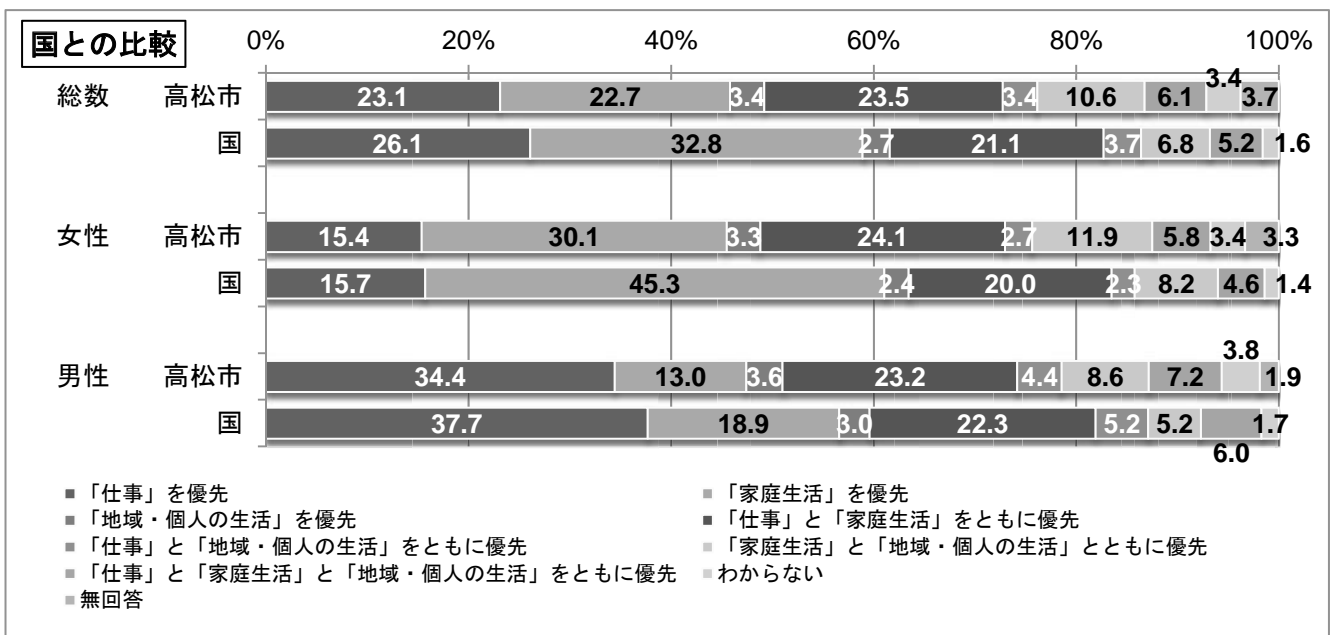
(2) あなたの現実に最も近いもの（優先している）



【全体】

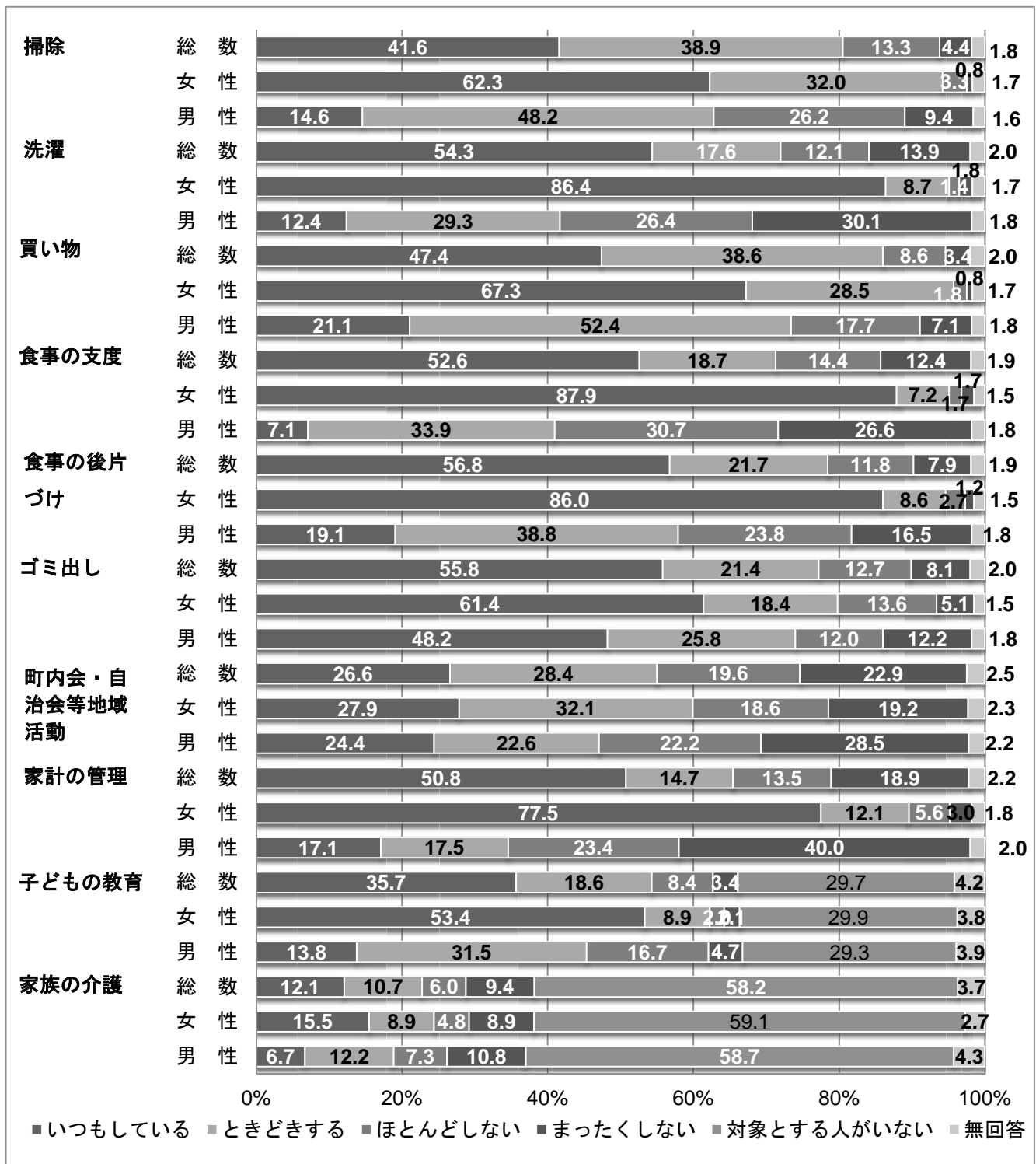
現実（現状）に最も近いものを聞いたところ、「仕事」を優先している」と答えた者の割合が23.1%、「家庭生活」を優先している」と答えた者の割合が22.7%、「地域・個人の生活」を優先している」と答えた者の割合が3.4%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」と答えた者の割合が23.5%、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた者の割合が3.4%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた者の割合が10.6%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた者の割合が6.1%となっている。

性別に見ると、男性は「仕事」を優先している」と答えた者の割合が高く、女性は、「家庭生活」を優先している」と答えた者の割合が高くなっている。



【ご結婚されている方（内縁を含む）のみにお伺いします。その他の方は、問4へお進みください。】

問3 あなたは、家庭において、次の家事等をどの程度行っていますか。それぞれについて当てはまる数字を1つ選んでください。（無回答には未婚の人も含む）



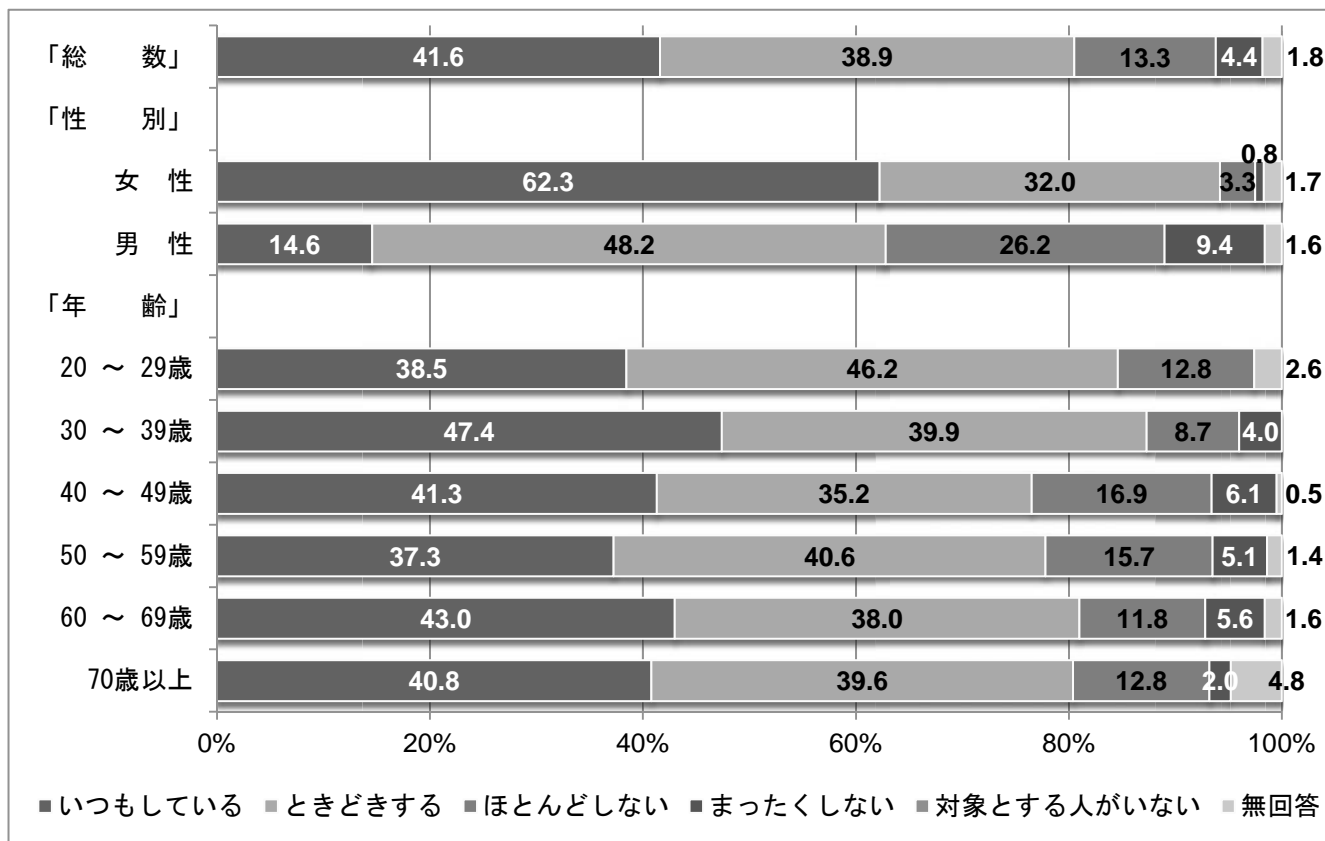
【全体】

家事等に関して、「洗濯」、「食事の支度」、「食事の後片付け」では、依然として女性の割合が80%を超えており、女性の家事等への負担割合が高いことが分かる。

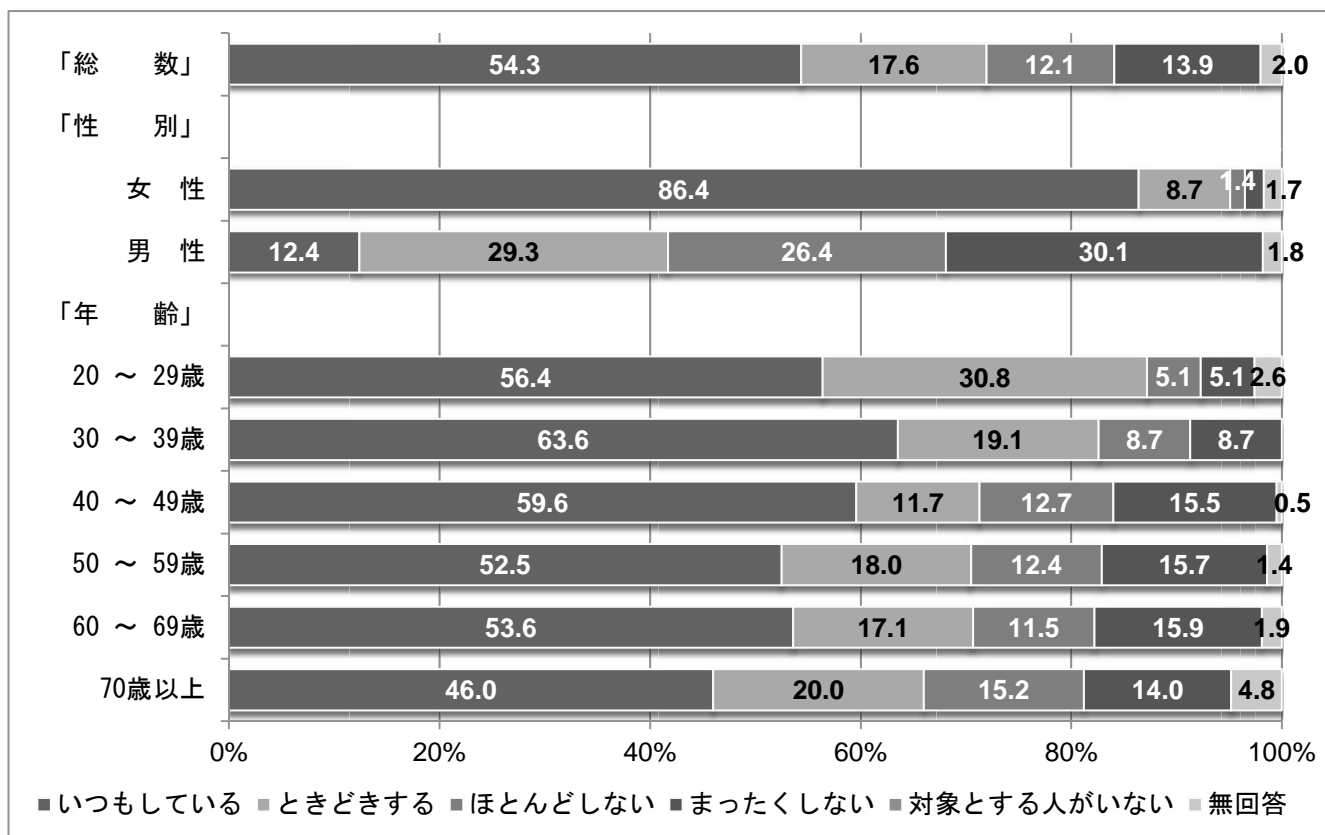
前回の調査結果と比較して見ると、大きな変化は見られないが、男性では、「ゴミ出しをいつもしている」と回答した者が、6.9ポイント増加している。

こうした結果を踏まえ、固定的性別役割分担意識にとらわれることなく、男性の家事等への参加を促すような取組をさらに推進していく必要がある。

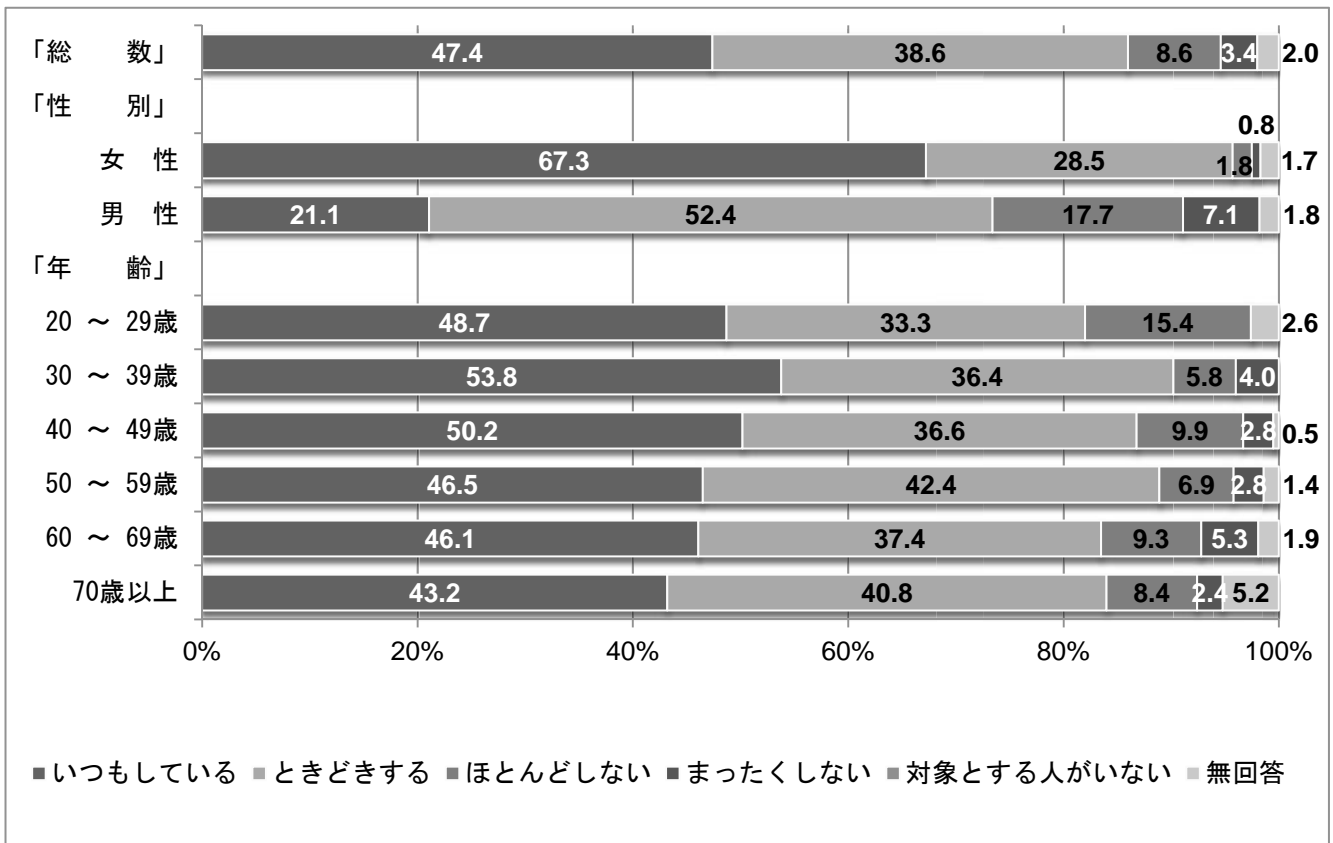
(1) 掃除



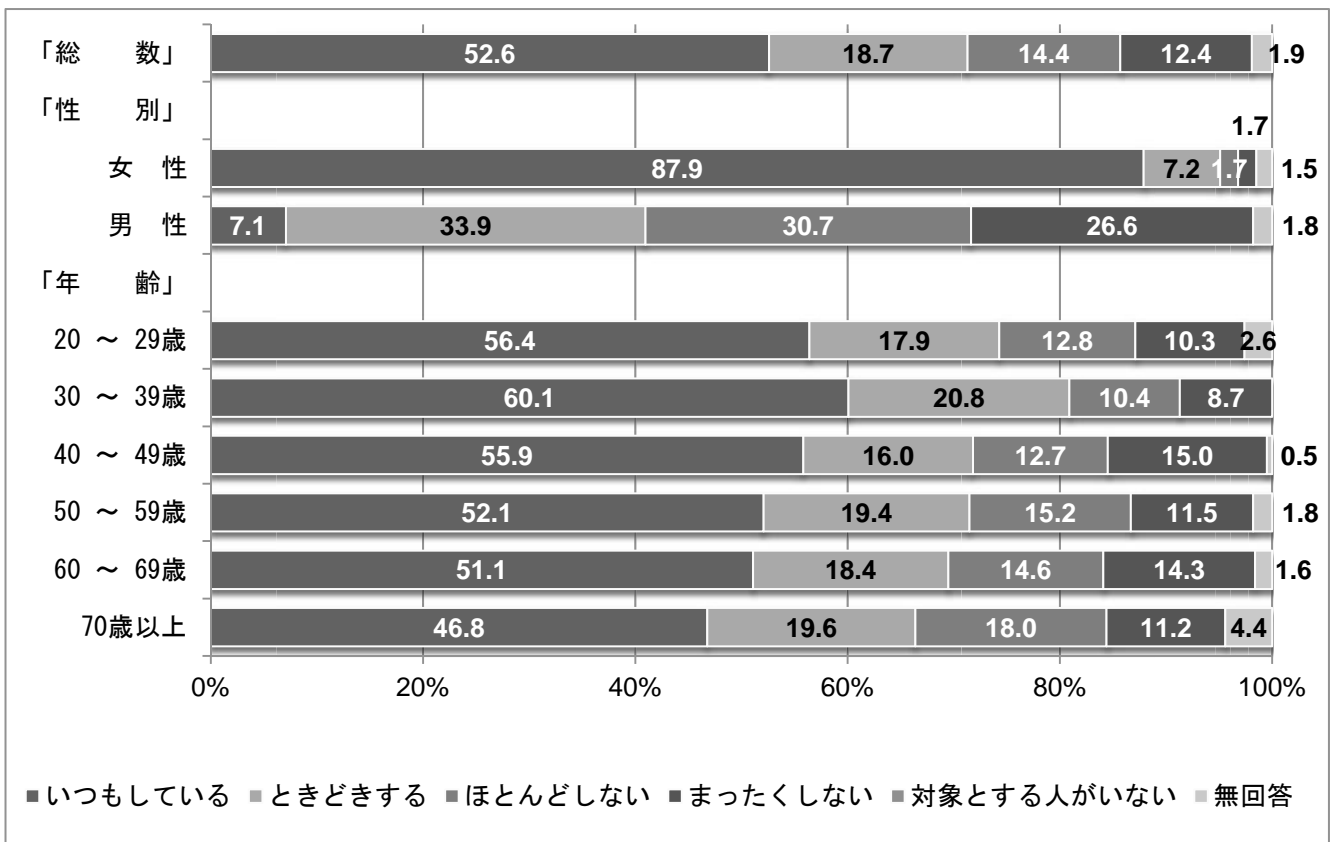
(2) 洗濯



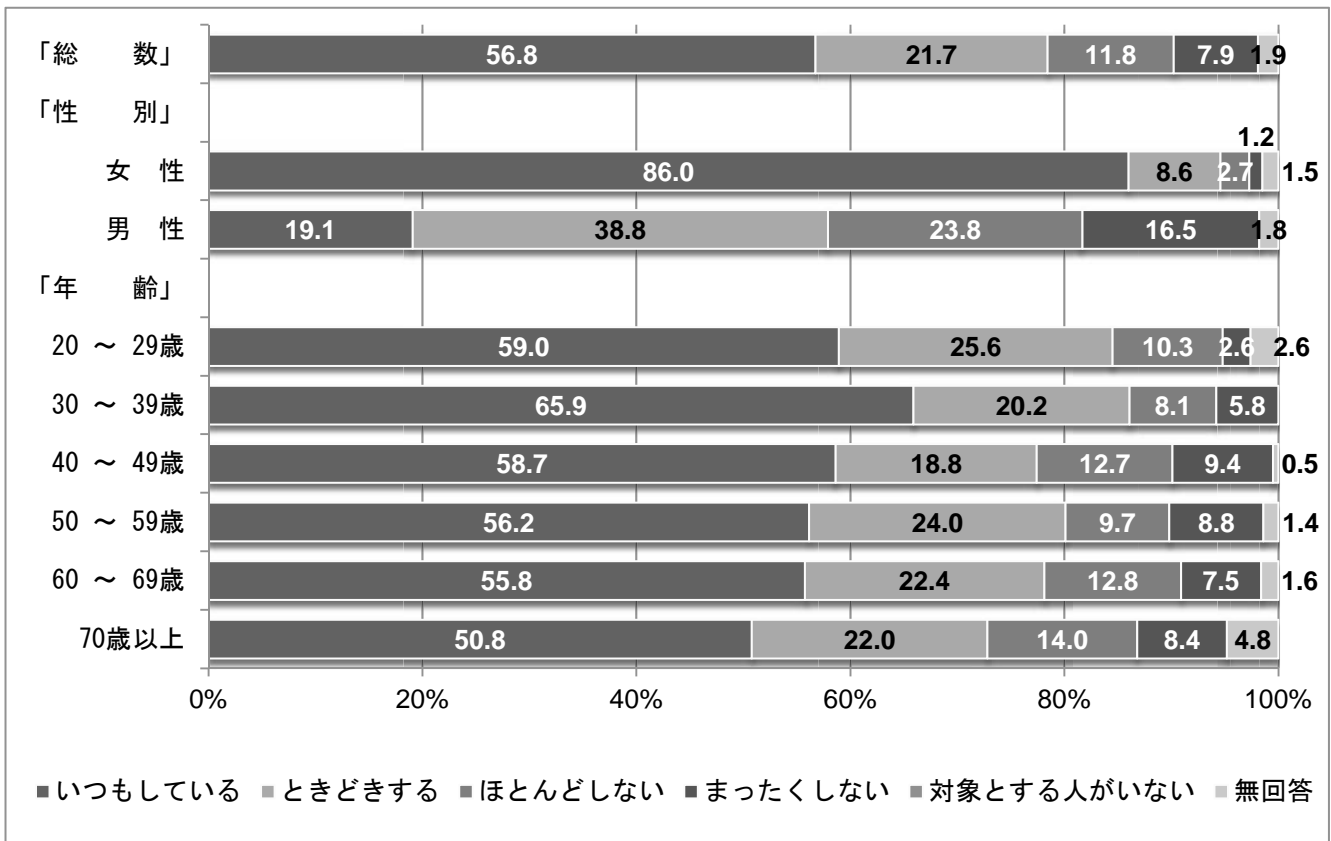
(3) 買い物（日用品）



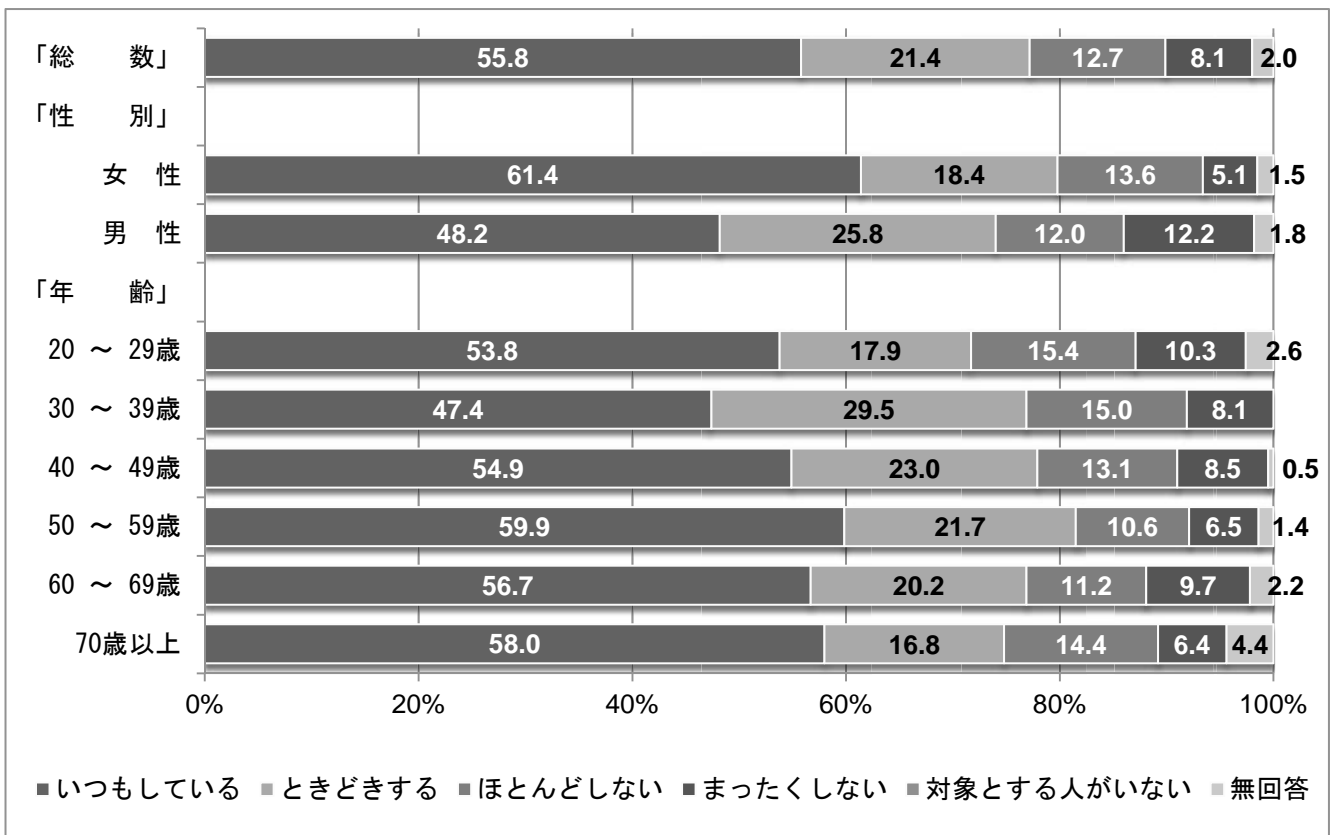
(4) 食事の支度



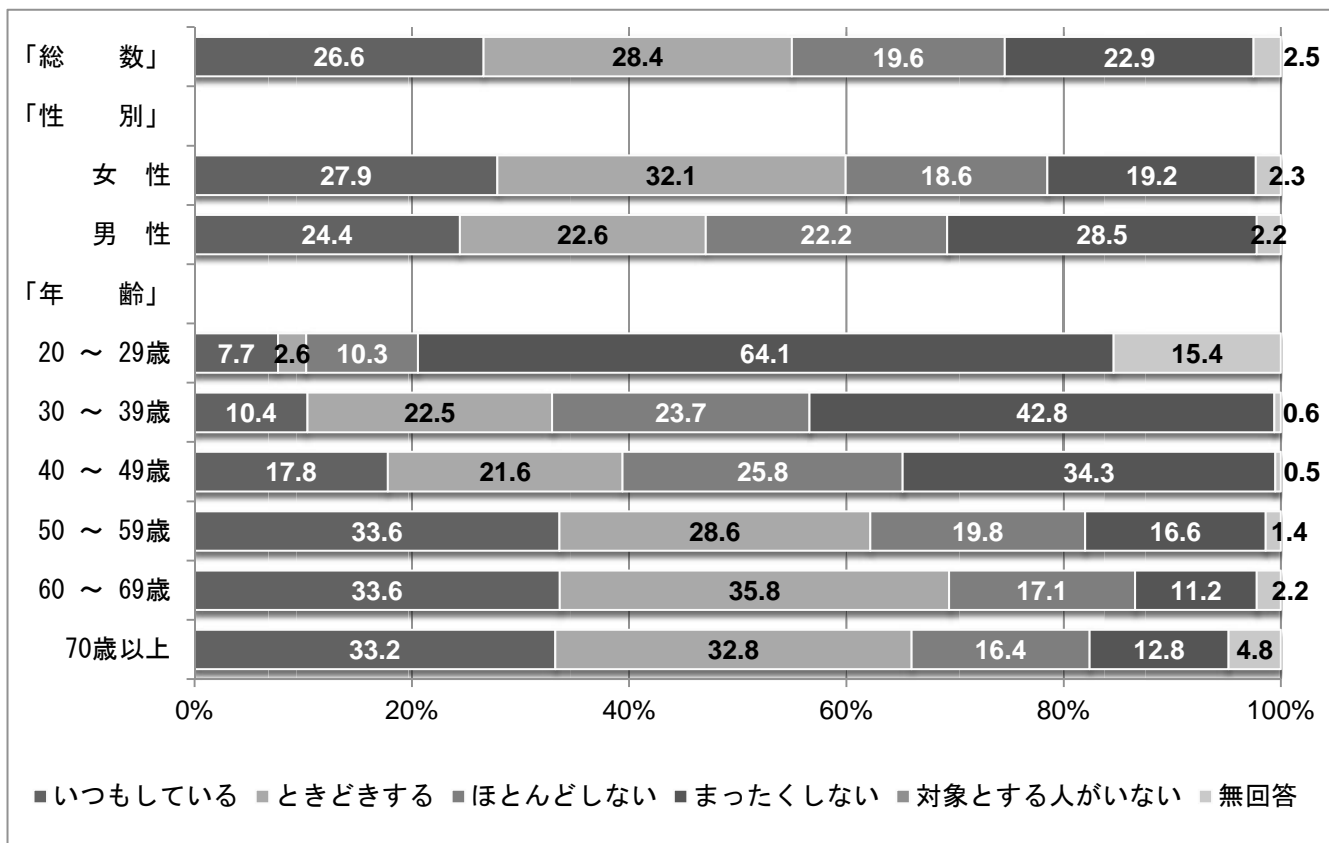
(5) 食事の後かたづけ



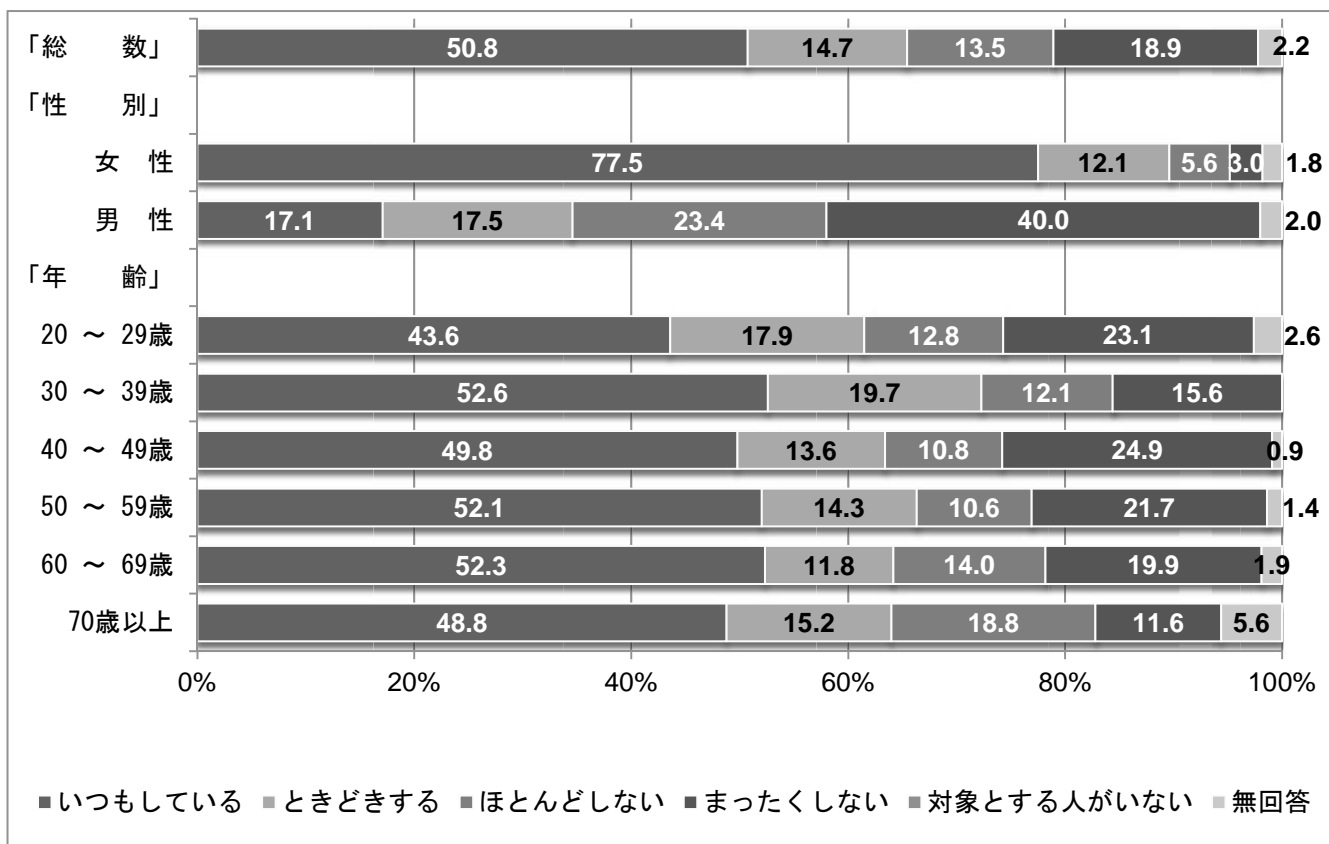
(6) ゴミ出し



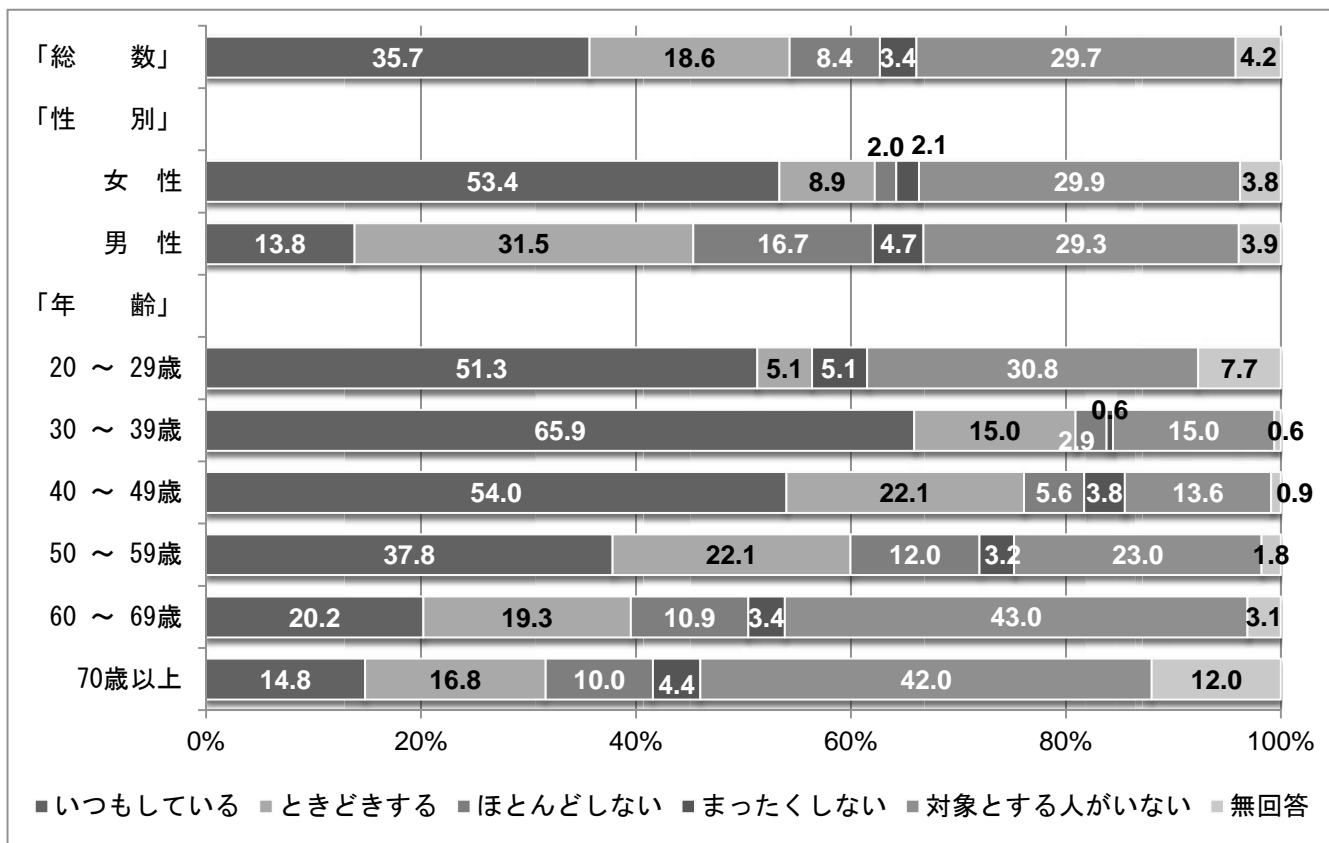
(7) 町内会・自治会等地域活動



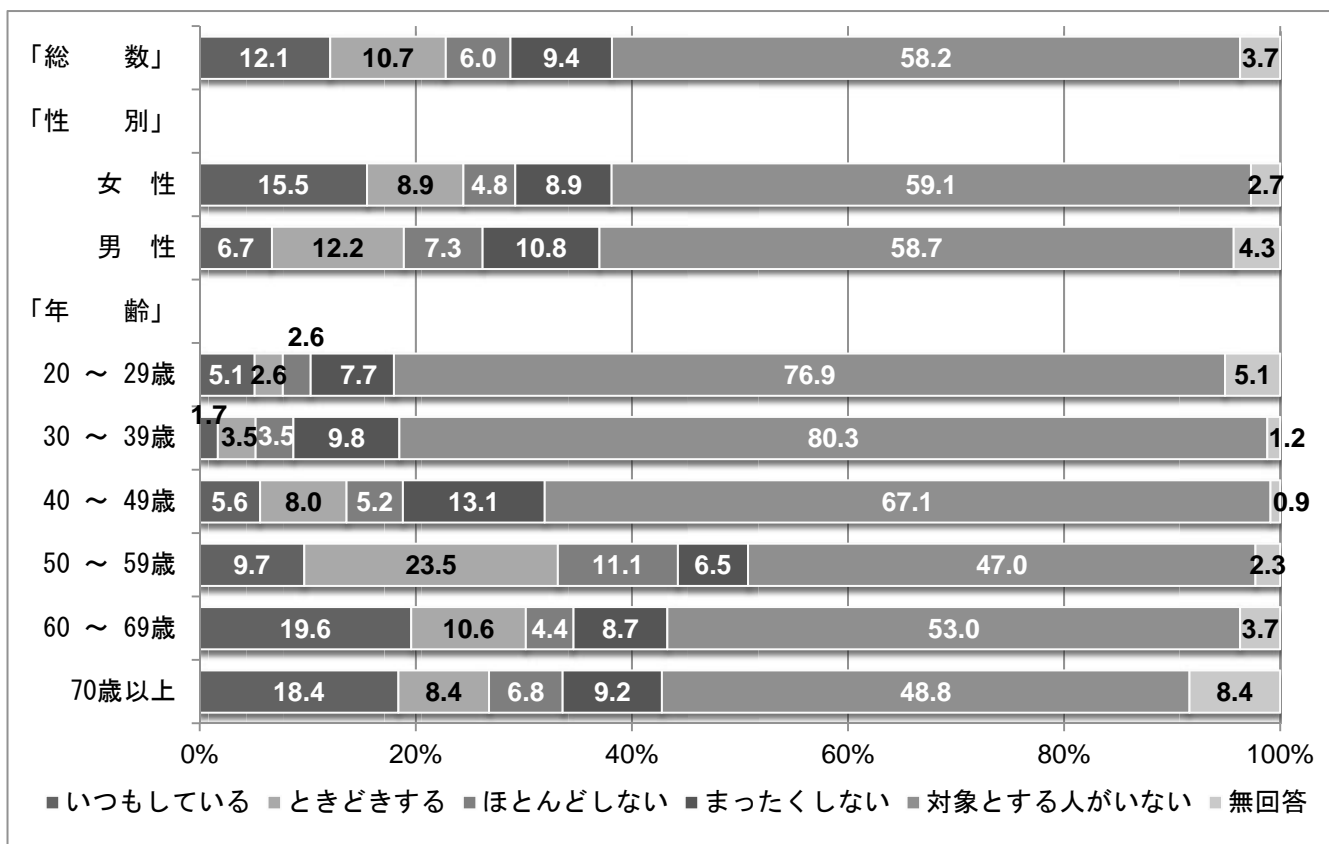
(8) 家計の管理



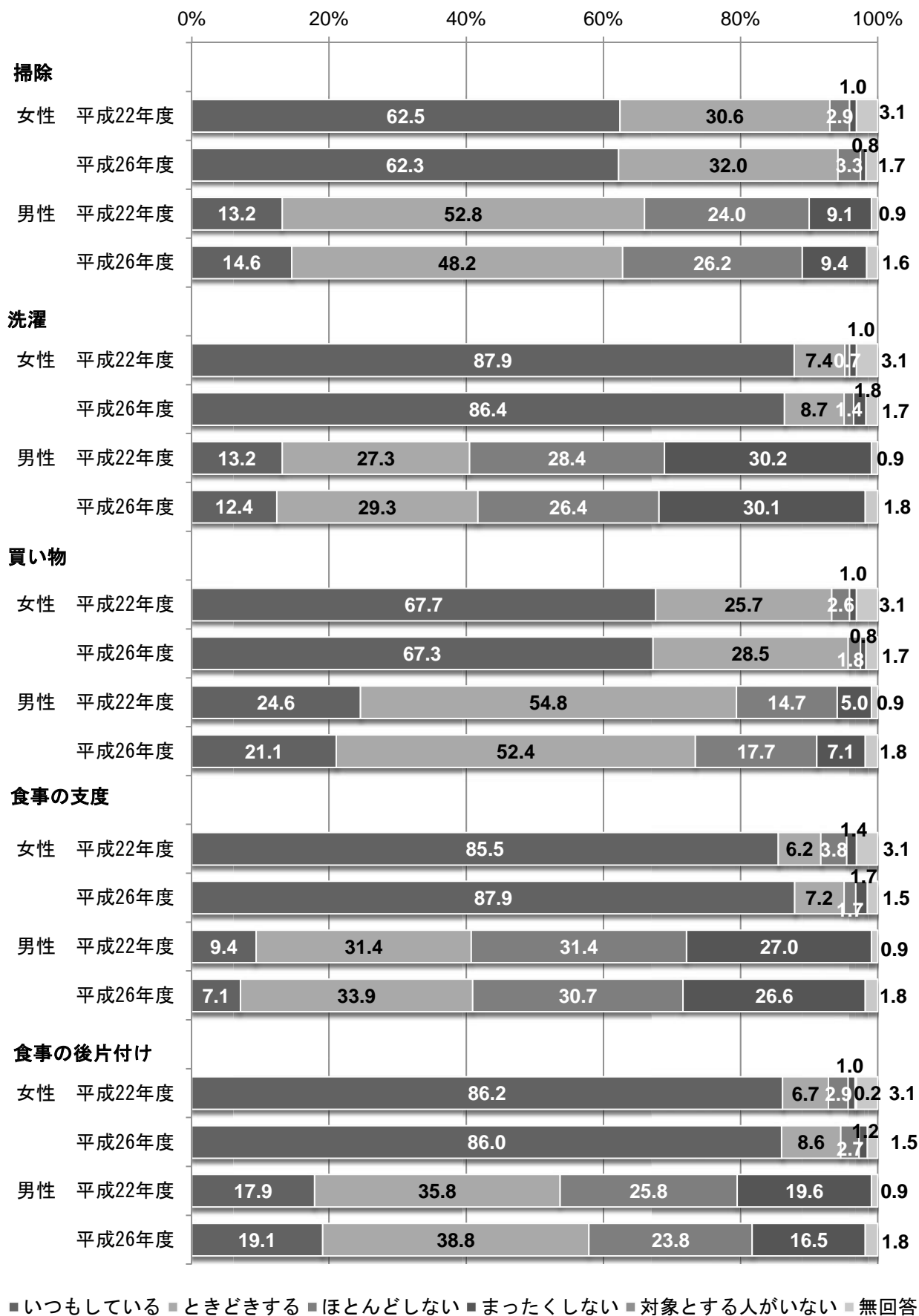
(9) 子どもの世話・しつけ・教育



(10) 家族の介護

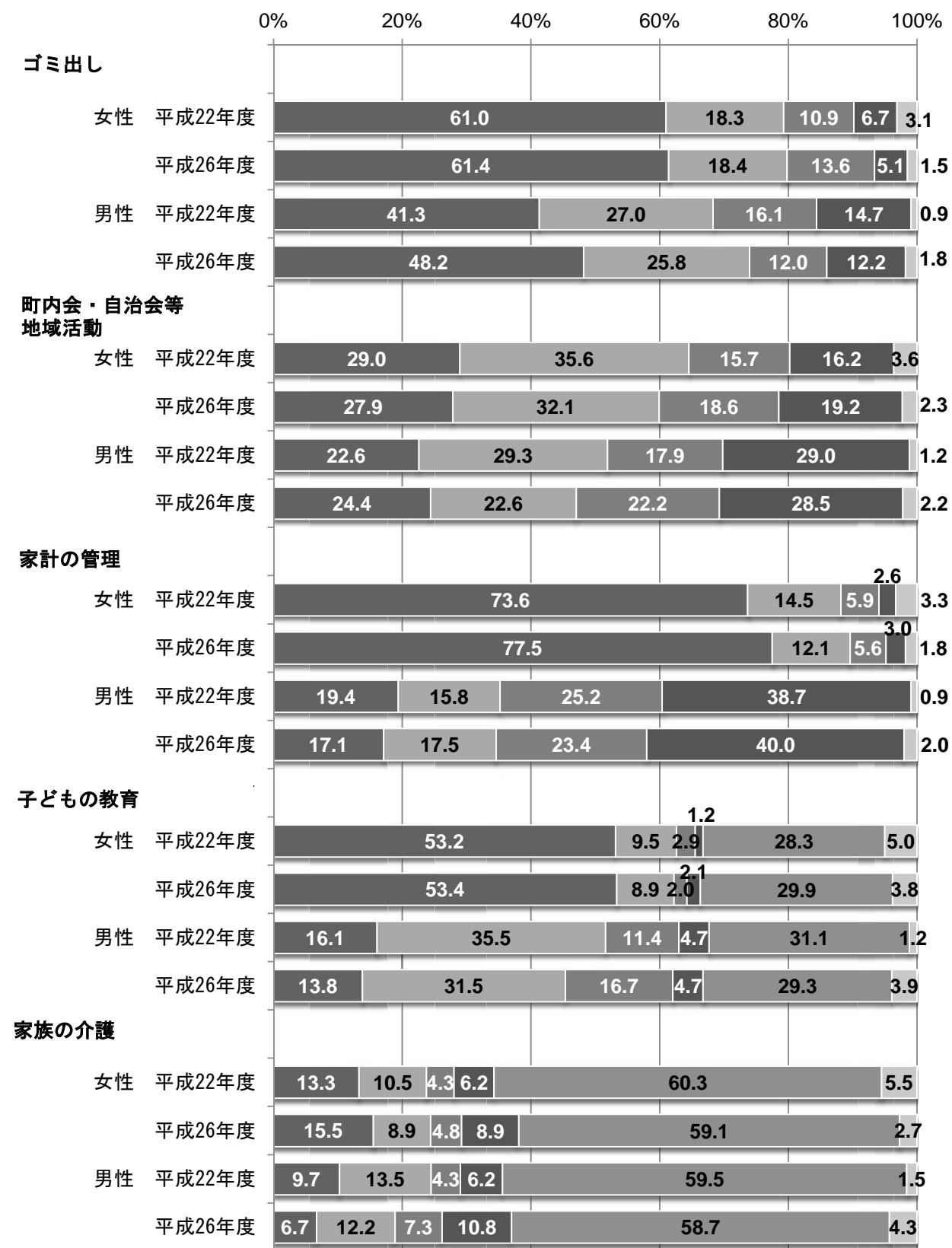


前回調査（平成22年度）との比較



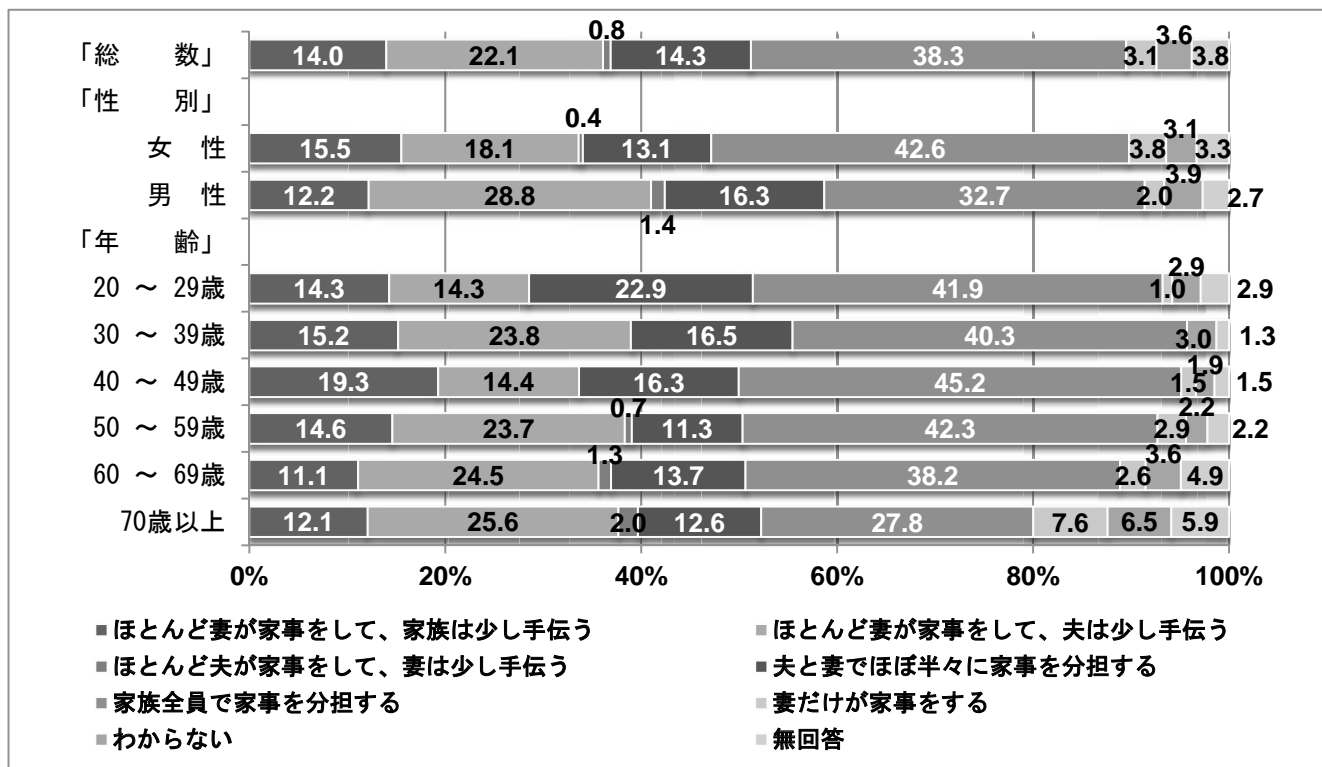
■いつもしている ■ときどきする ■ほとんどしない ■まったくしない ■対象とする人がいない ■無回答

前回調査（平成22年度）との比較



■いつもしている ■ときどきする ■ほとんどしない ■まったくしない ■対象とする人がいない ■無回答

問4 あなたは、家事(育児・介護を含む)について、どのように分担すべきだと思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。

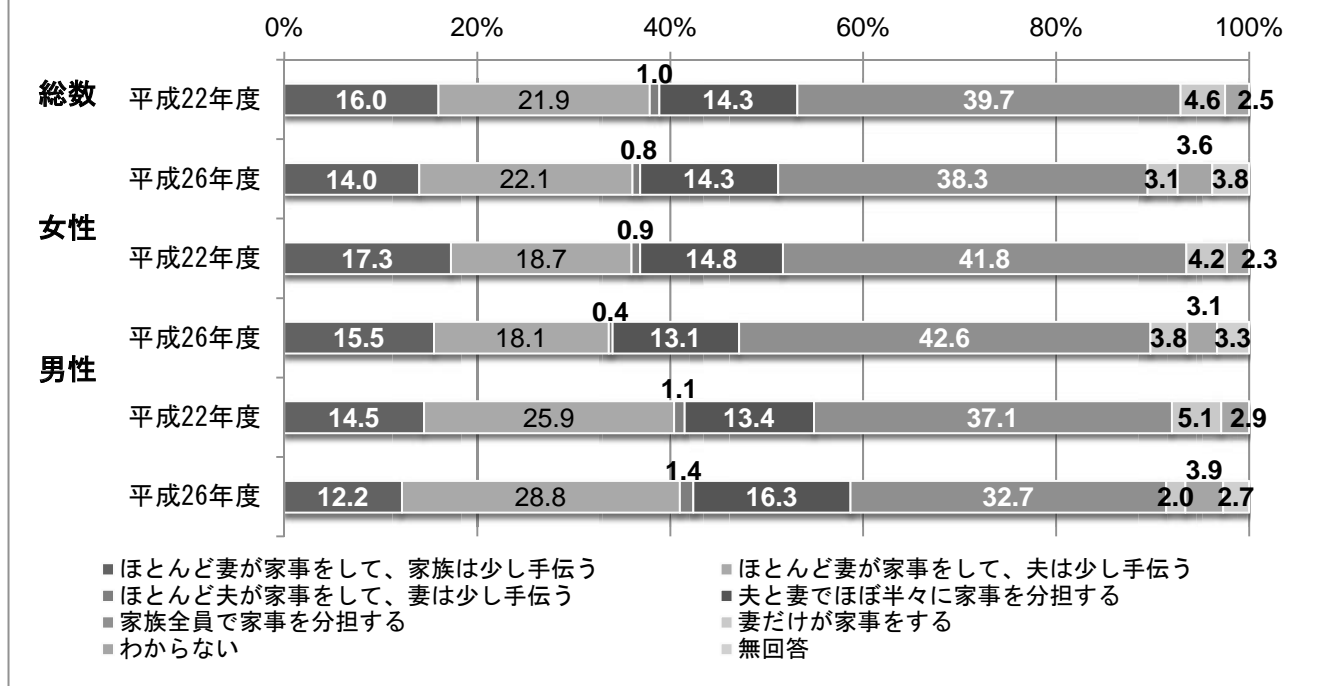


【全体】

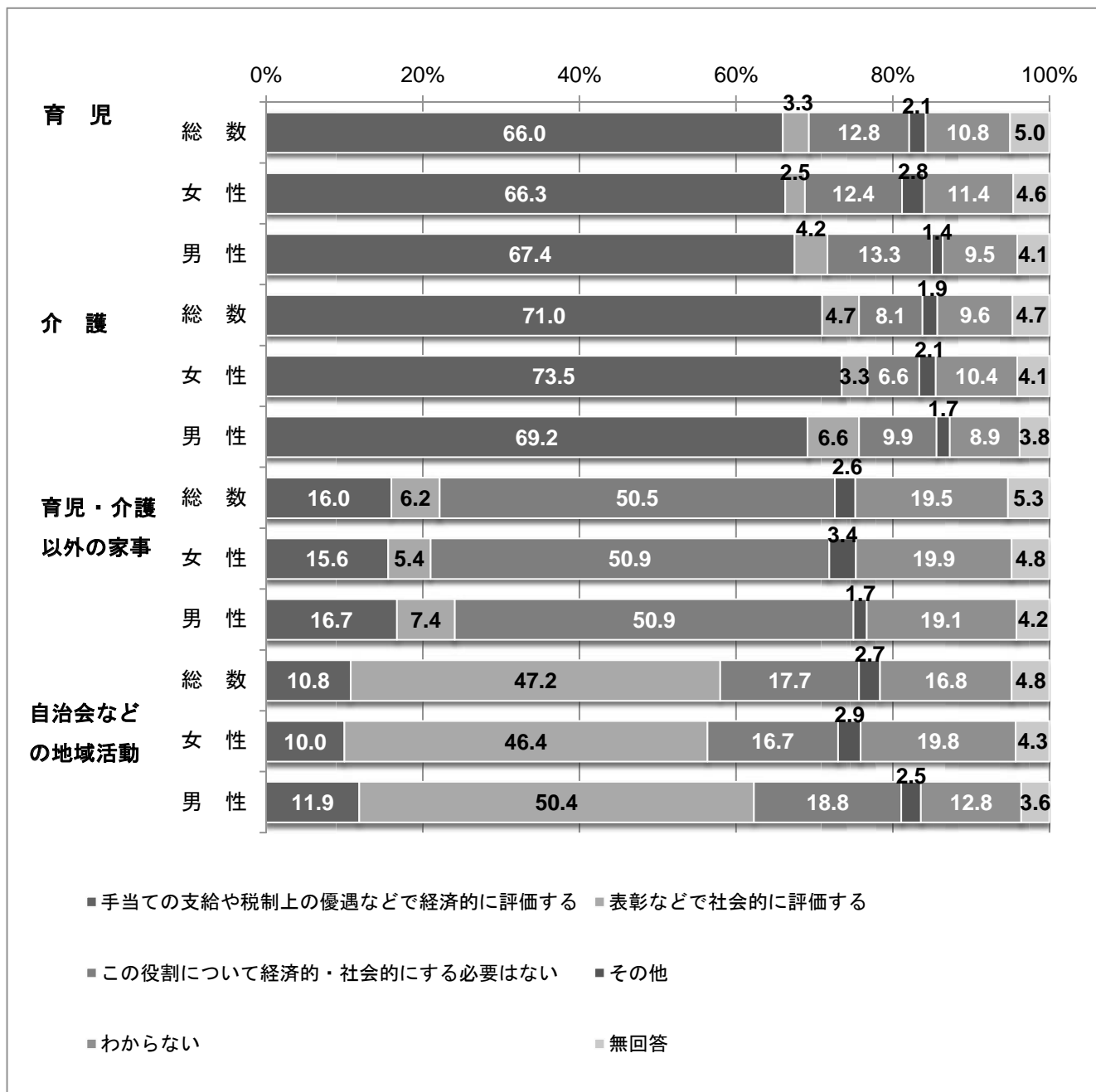
家事の分担のうち、回答が多かったのは、家族全員で家事を分担する（38.3%）と、ほとんど妻が家事をして夫は少し手伝う（22.1%）と、ほとんど妻が家事をして家族は少し手伝う（14.0%）である。

前回調査と比較してみると、大きな変化は見られないが、30歳代において、「ほとんど妻が家事をすべき」とする者の割合が8.4ポイント増加している。（30.6%→39.0%）

前回調査（平成22年度）との比較



問5 「育児、介護などの家庭で担われている役割は社会的にも重要であるため、社会全体で評価していこう」という考え方がありますが、あなたは具体的にどのような形で評価することが必要だと思いますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。



【全体】

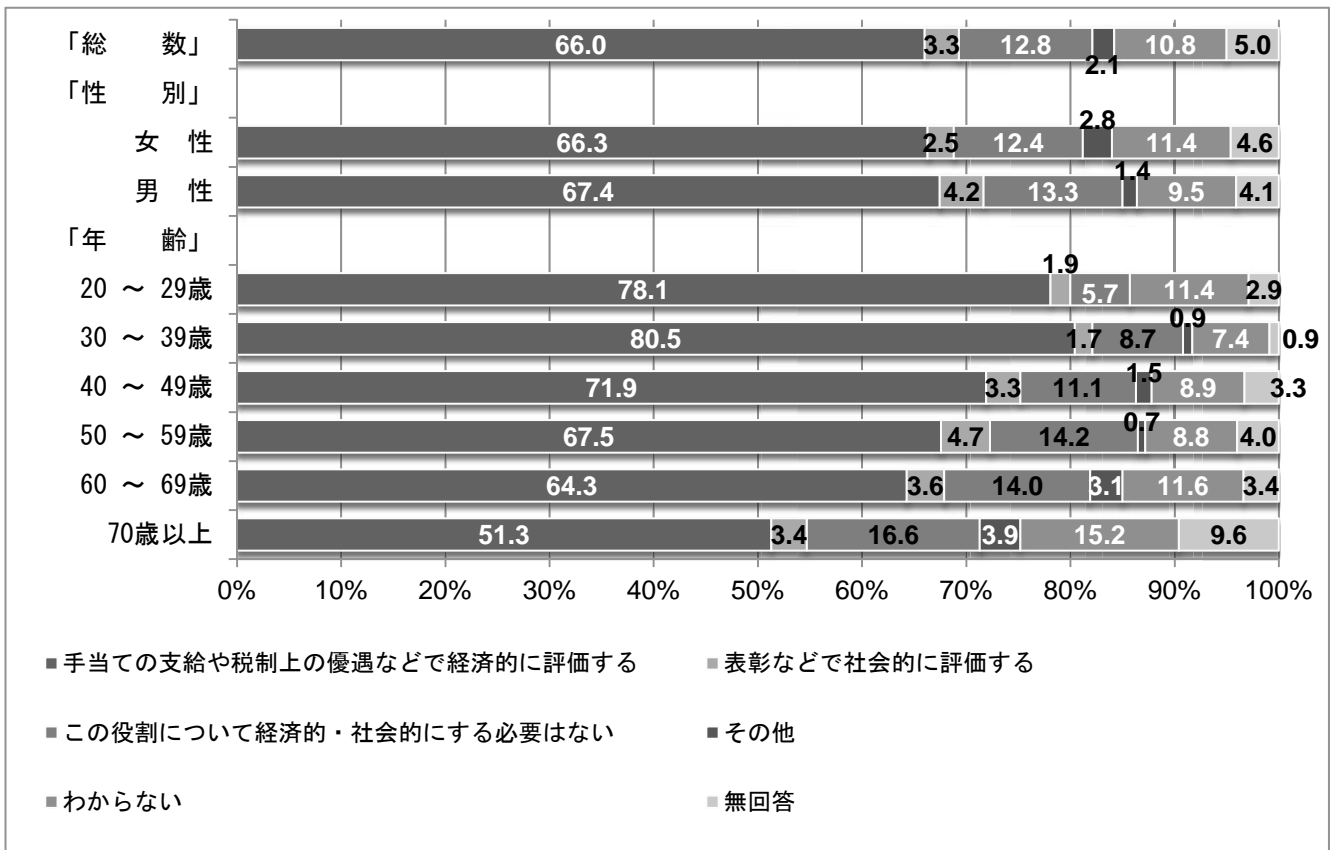
評価すべき事柄のうち、育児と介護に関して、最も回答が多かったのは、手当での支給や税制上の優遇などで経済的に評価する（育児66.0%）（介護71.0%）である。

また、自治会などの地域活動に関して、最も回答が多かったのは、表彰などで社会的に評価する（47.2%）である。

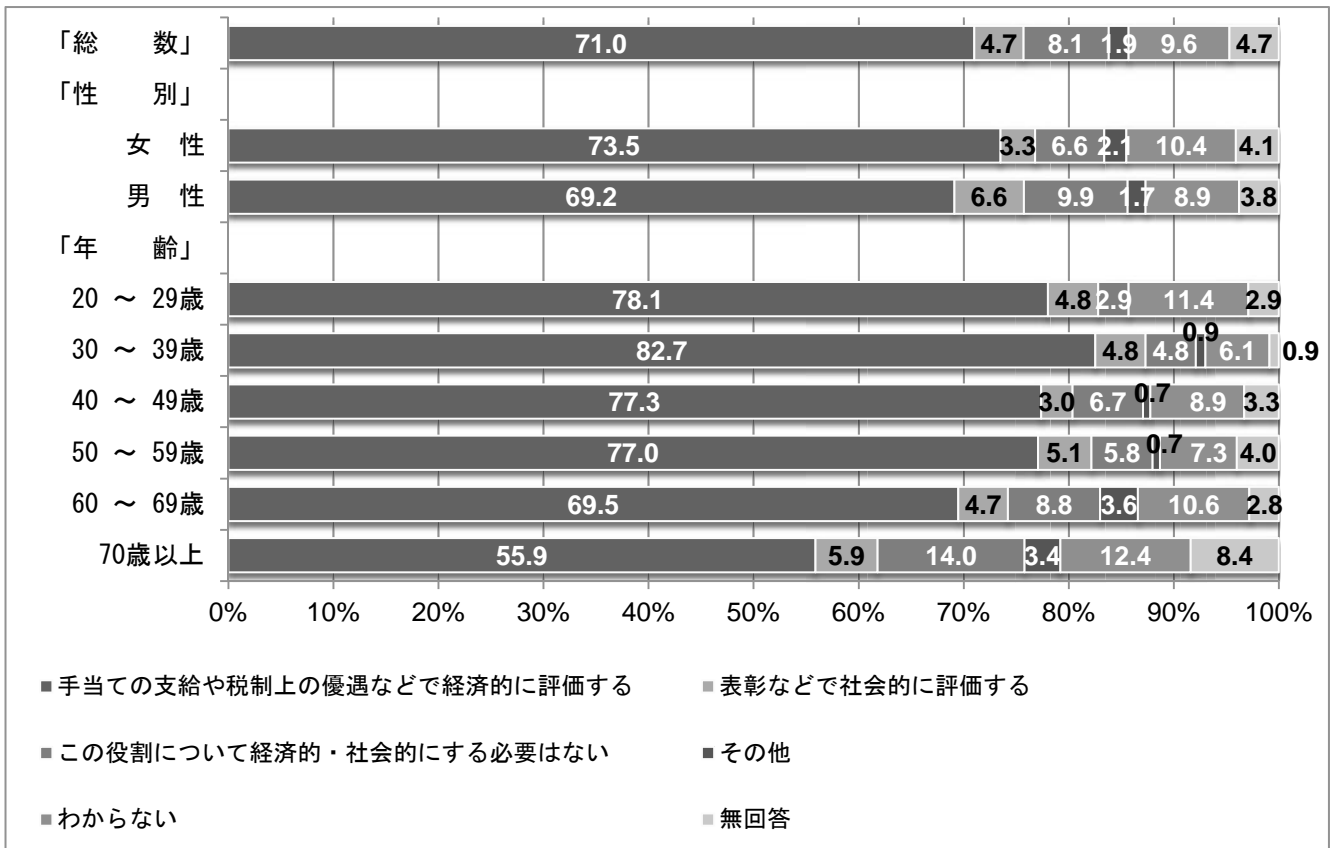
性別に見ると、「手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価する」と答えた者の割合は、育児では男性が、介護では女性が高くなっている。年齢別に見ると、「手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価する」と答えた者の割合は若い世代で高くなっている。

前回の調査結果と比較して見ると、「手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価する」（育児57.0%→66.0%）（介護68.3%→71.0%）と答えた者の割合が上昇している。

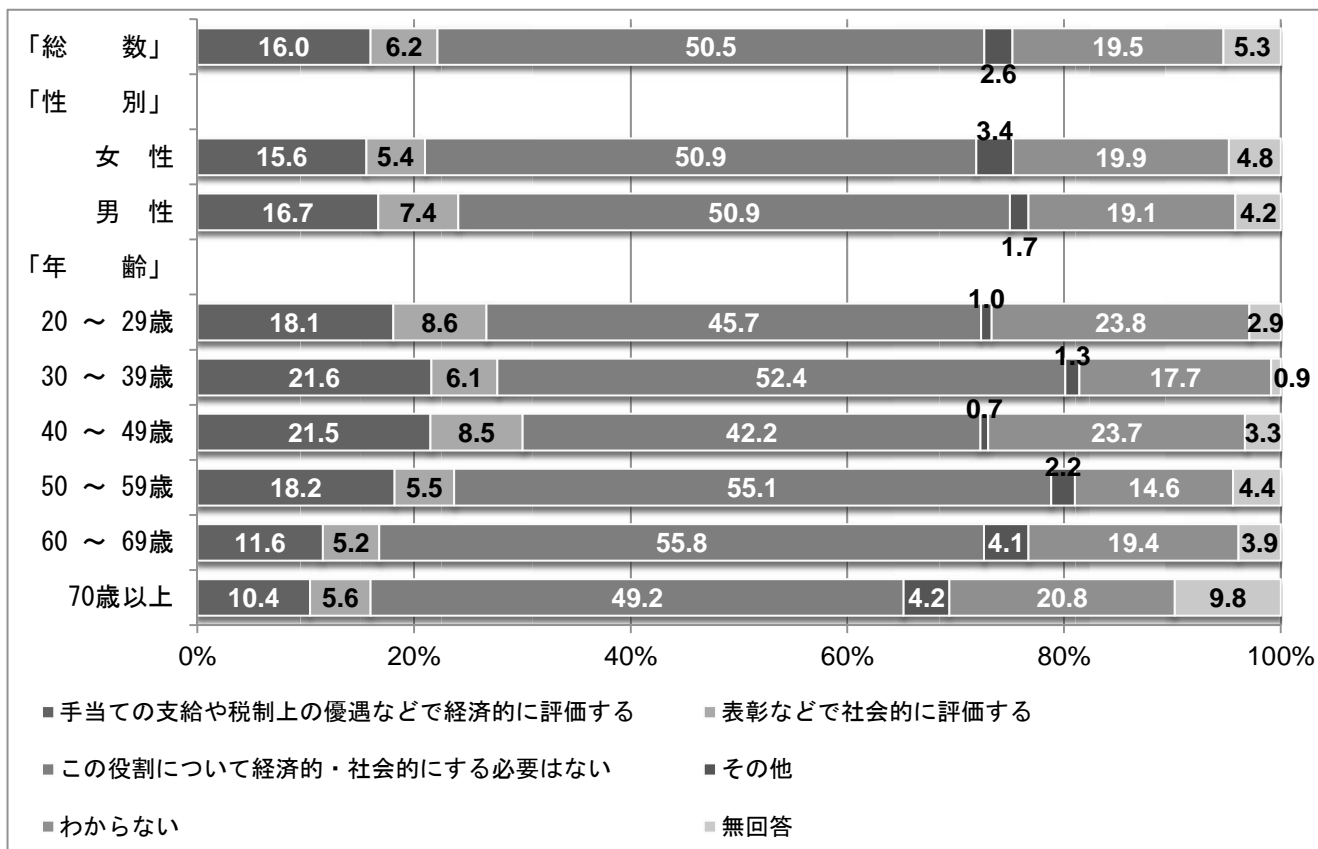
(1) 育児



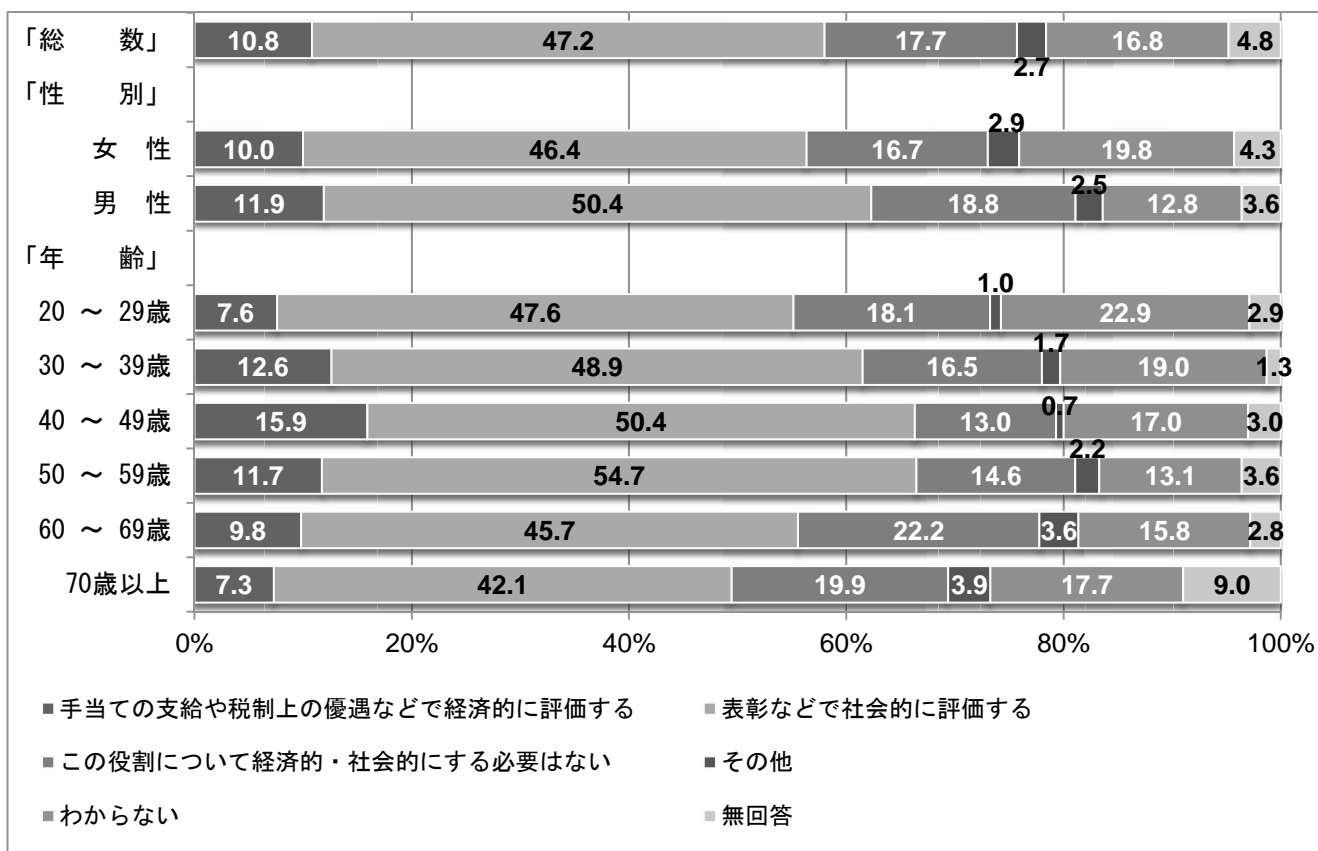
(2) 介護



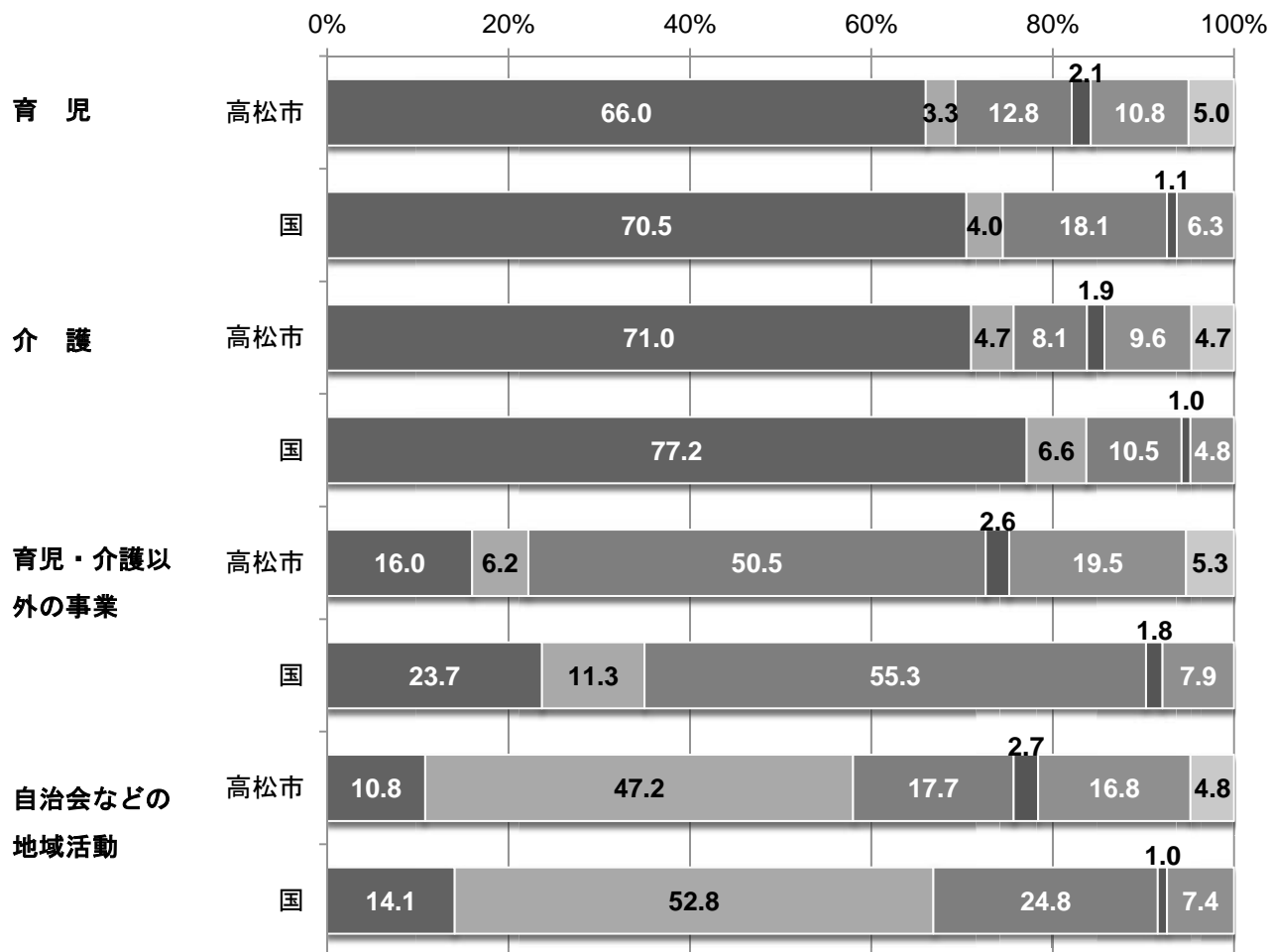
(3) 育児・介護以外の家事



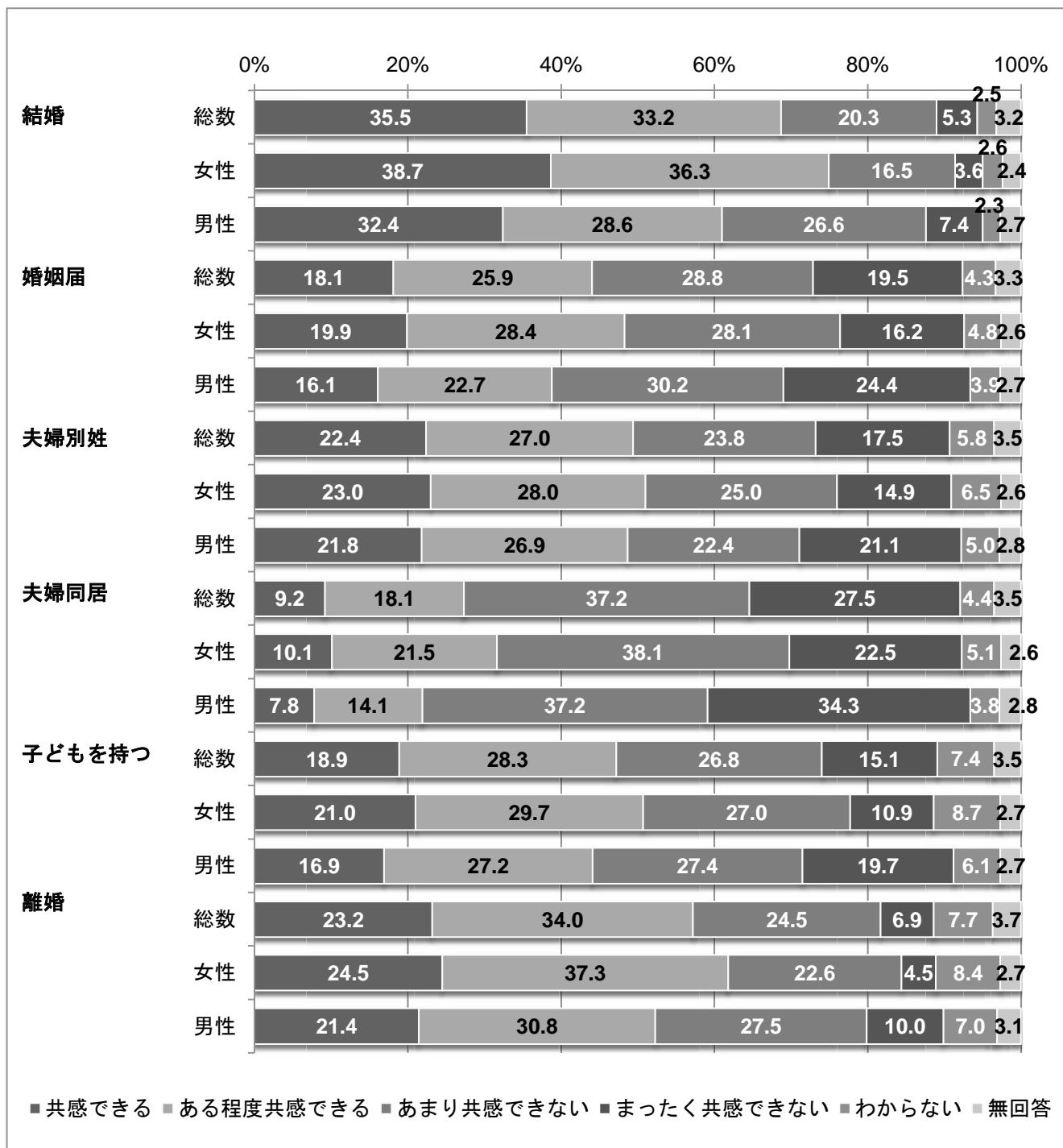
(4) 自治会などの地域活動



国との比較



問6 あなたは、結婚について、どのように考えていますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。

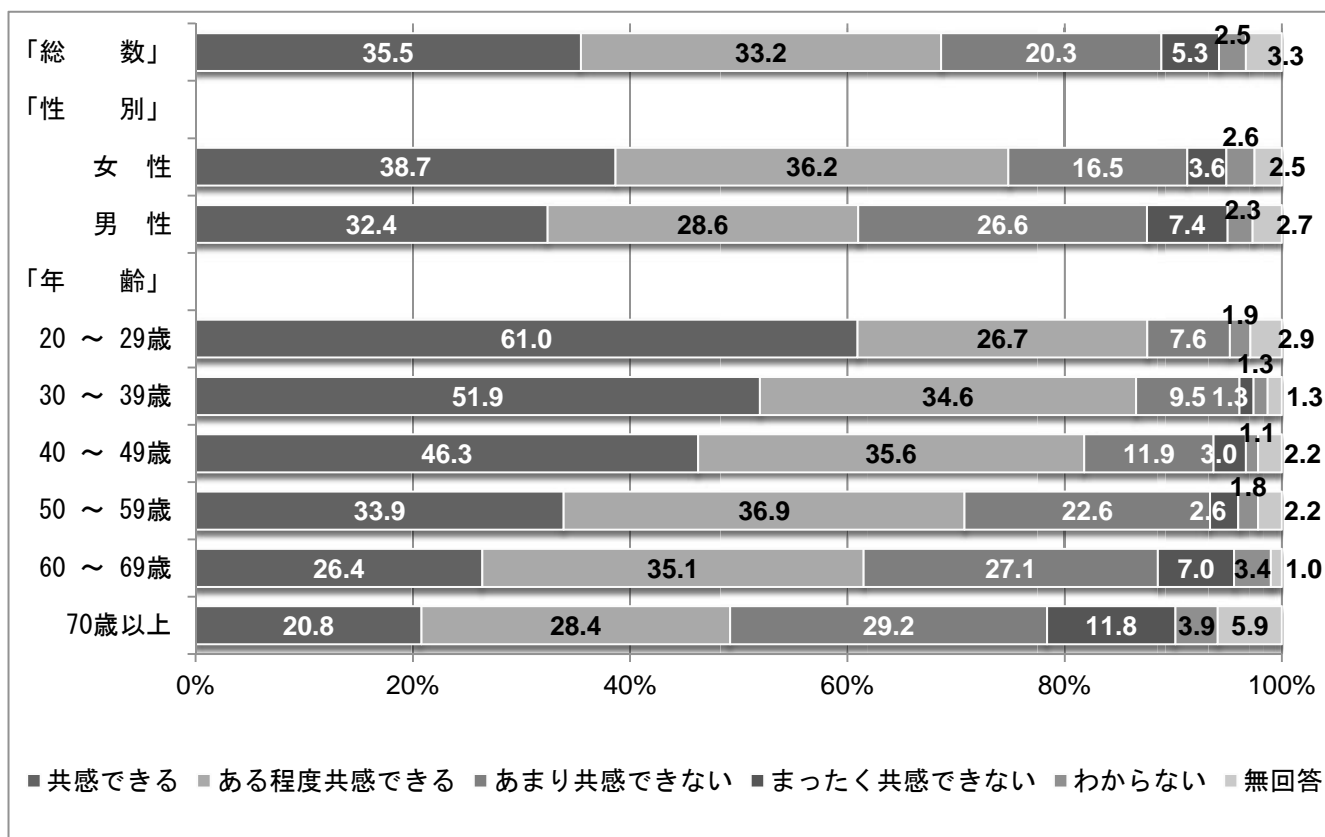


【全体】

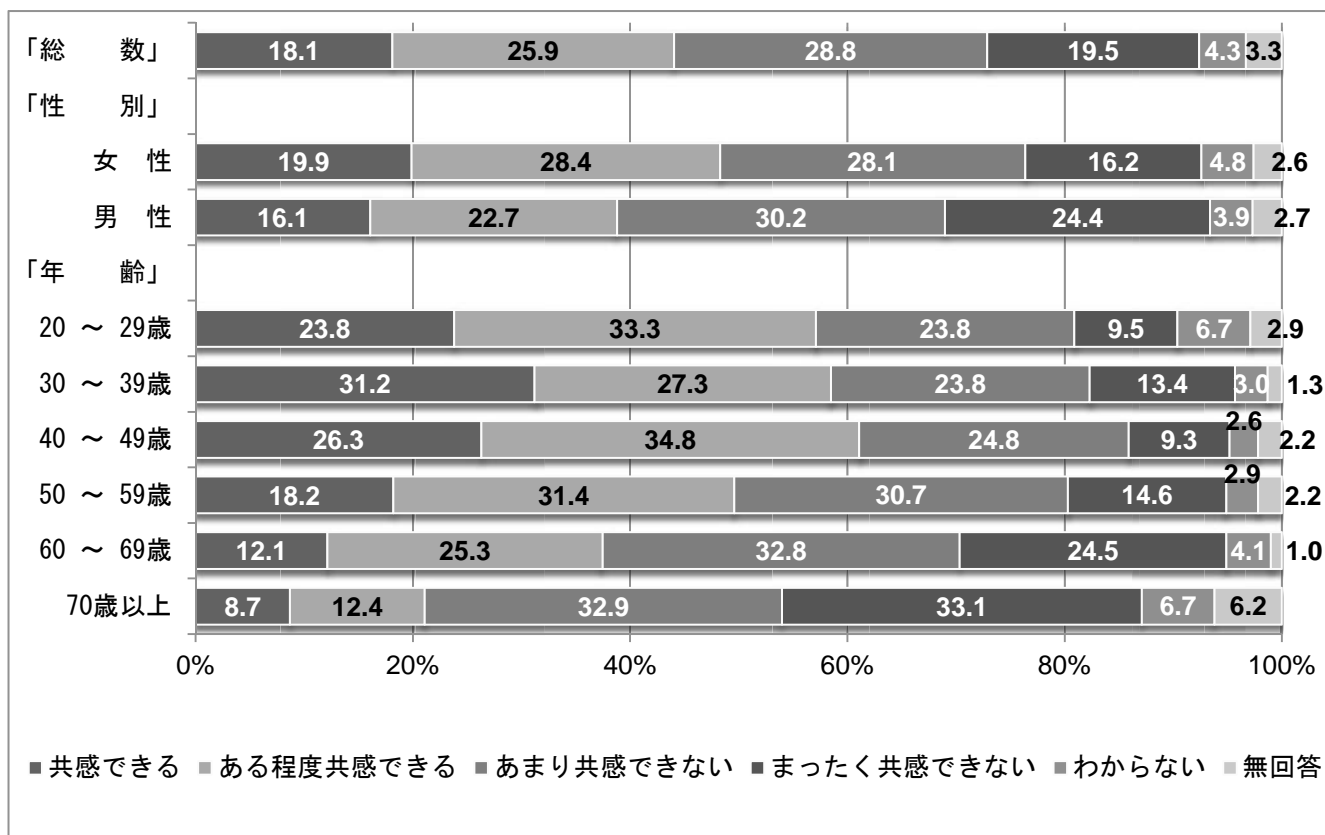
結婚に関する考え方のうち、賛成（共感できる、ある程度共感できる）の回答が多かったのは、「結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい」（68.7%）と、「結婚生活に満足できないときは離婚してもかまわない」（57.2%）などとなっている。

前回調査と比較して大きな変化が見られるのは、「夫婦が別の姓を名乗る結婚が認められても良いという考え方」に共感すると答えた者が、12.7ポイント（36.7%→49.4%）増加、「お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はないという考え方」に共感する者が、9.3ポイント（34.7%→44.0%）増加している。

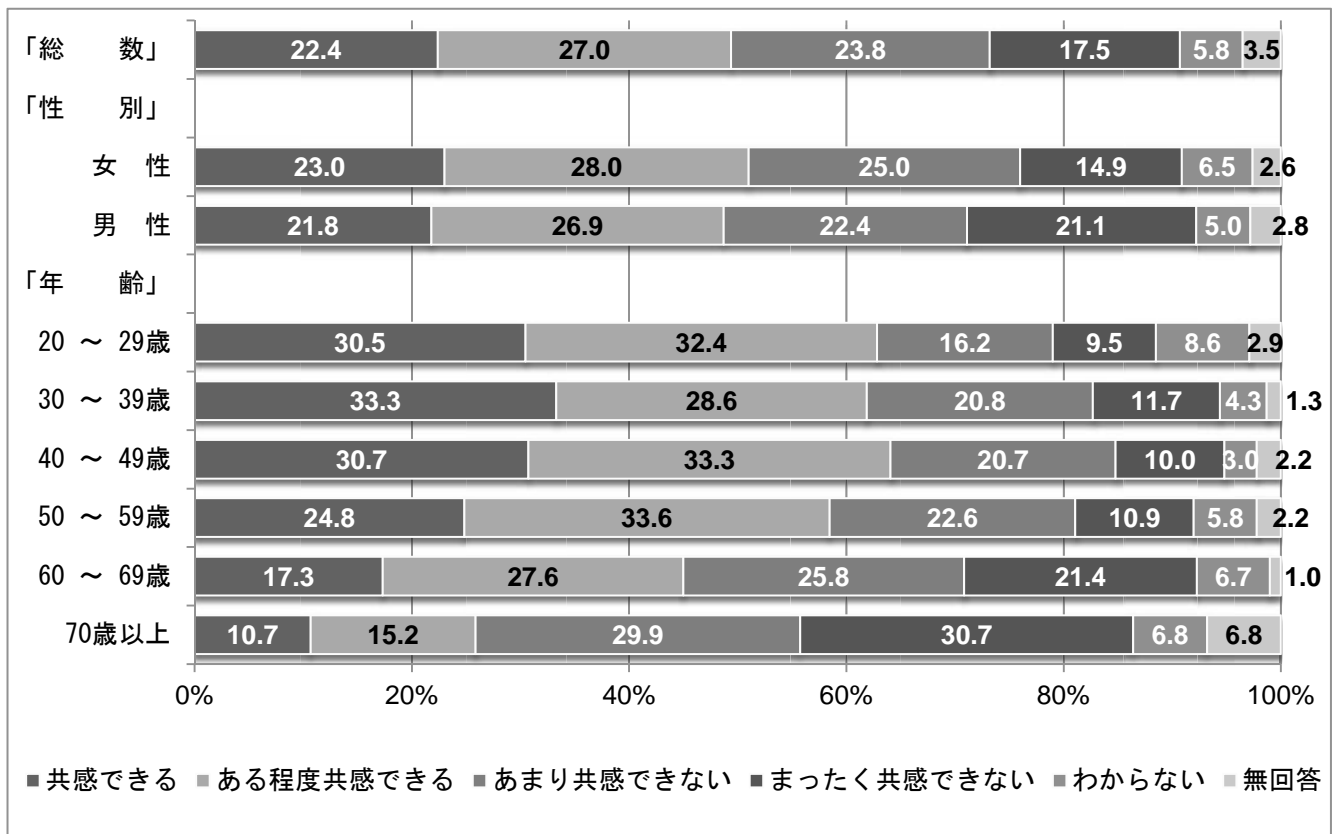
(1) 結婚は個人の自由だから、結婚しても、しなくてもどちらでもよいという考え方



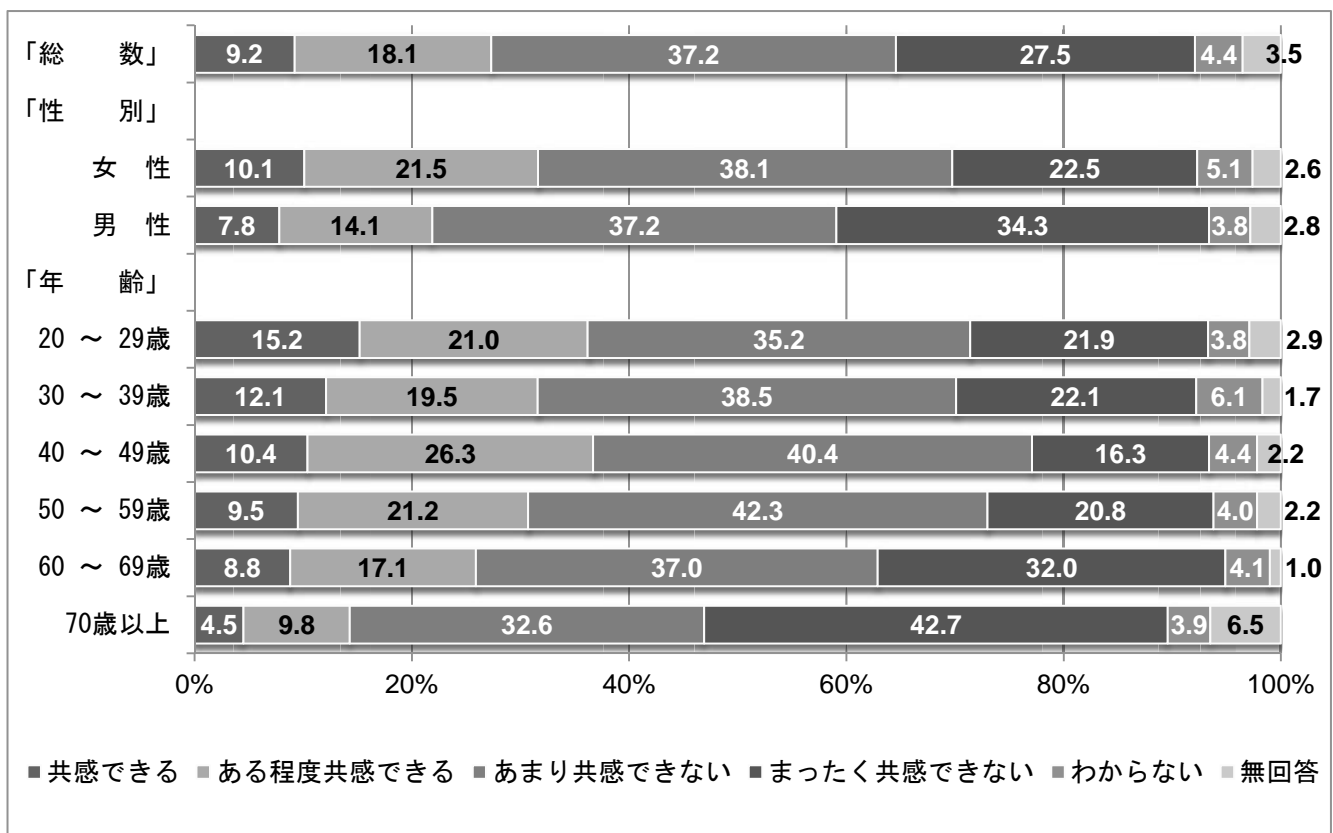
(2) お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はないという考え方



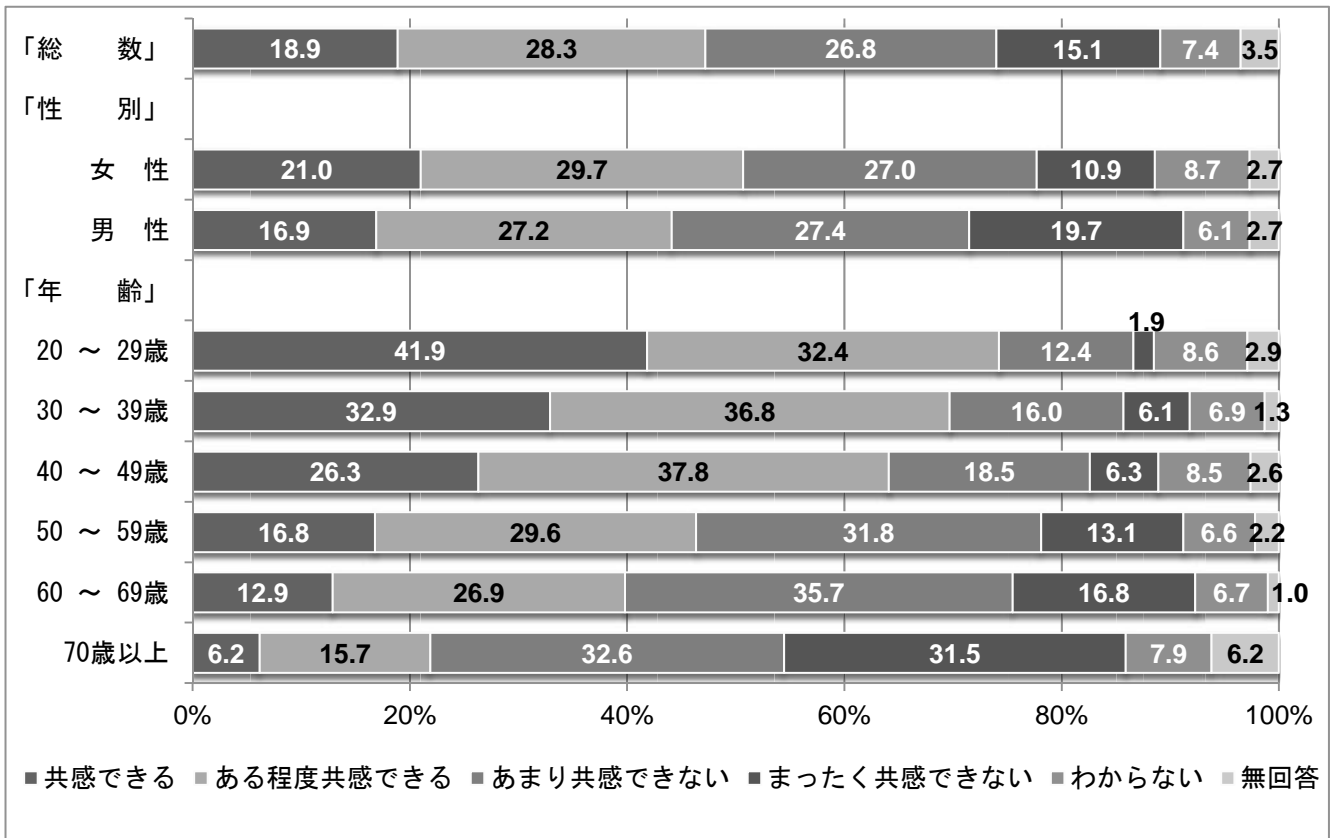
(3) 夫婦が別の姓を名乗る結婚が認められても良いという考え方



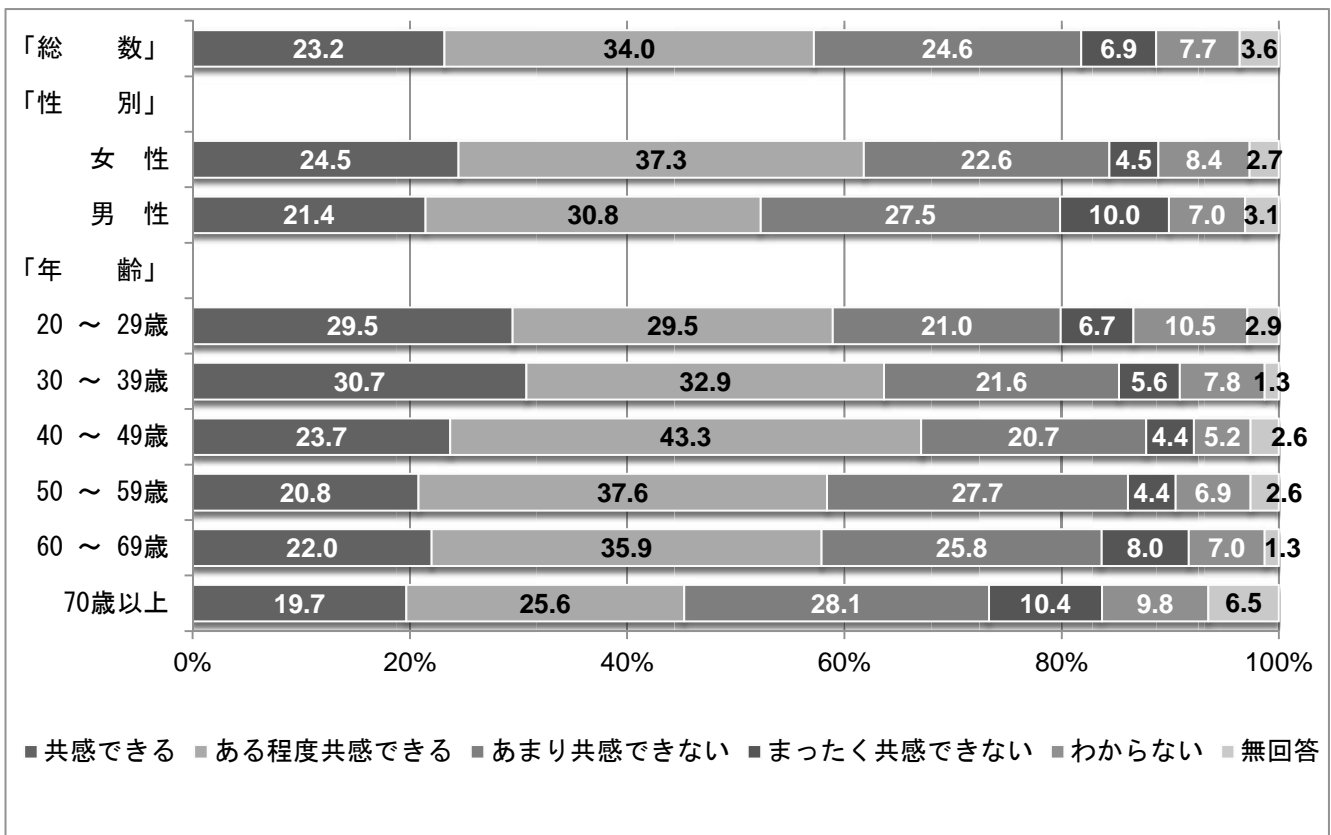
(4) 夫婦は同居しなくてもよいという考え方



(5) 結婚しても必ず子どもをもつ必要はないという考え方



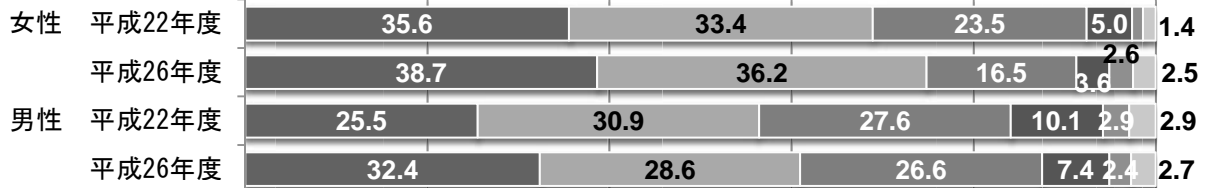
(6) 結婚生活に満足できないときは離婚してもかまわないという考え方



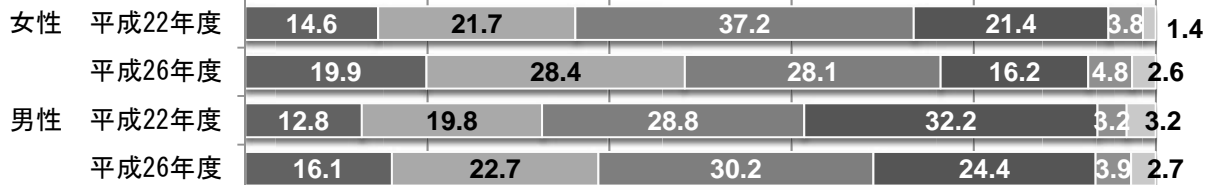
前回調査（平成22年度）との比較

0% 20% 40% 60% 80% 100%

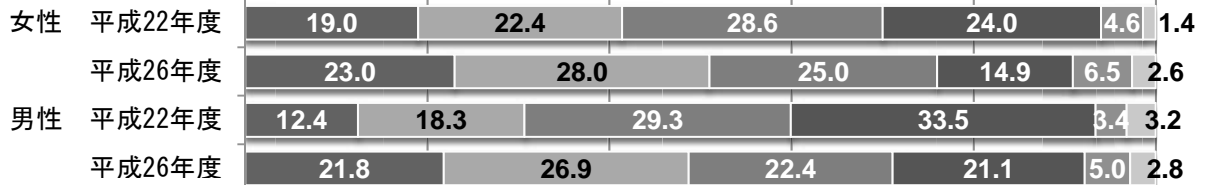
結婚



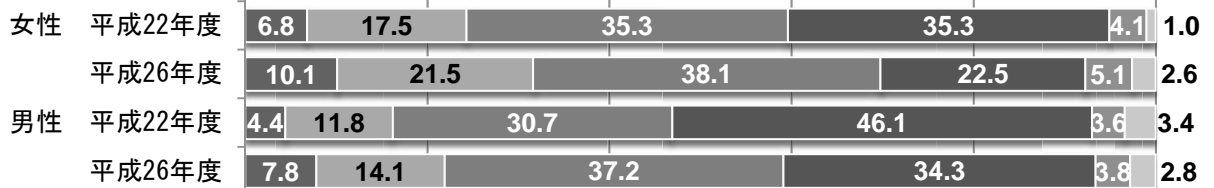
婚姻届



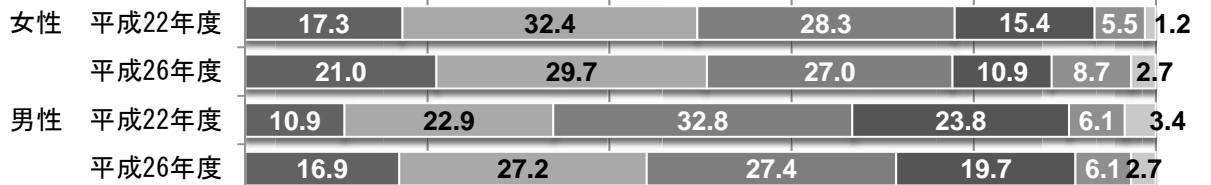
夫婦別姓



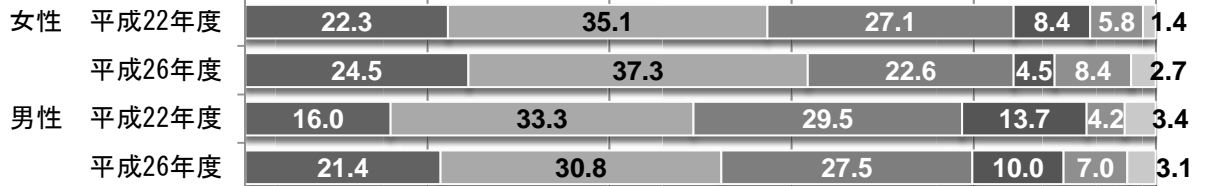
夫婦同居



子どもを持つ



離婚



■ 共感できる ■ ある程度共感できる ■ あまり共感できない ■ まったく共感できない ■ わからない ■ 無回答